

第十六章 一九二四年移民法制定以後ノ情勢

第一節 一九二四年移民法及關係法規ノ修正

第一、序 說

一、現行移民法ノ範圍

一九二四年米國移民法第二十五條ハ

本法ノ規定ハ諸移民法ノ規定ニ追加セラレ其一部トシテ施行セラルルモノニシテ之ニ代ルヘキモノニ非ス尙右諸法ノ罰則其他ノ規定ニシテ適用スルコトヲ得ルモノハ本法ノ規定ニモ適用セラレ且本法ト關聯シテ施行セラルヘシ外國人ニシテ本法ノ規定ニ依リ入國シ得ルモノト雖モ本法以外ノ移民法ノ規定ニ依リテ禁止セラルルトキハ合衆國ニ入國スルコトヲ得ス外國人ニシテ本法以外ノ移民法ノ規定ニ依リテ入國シ得ルモノト雖モ本法ノ規定ニ依リ禁止セラルルトキハ合衆國ニ入國スルコトヲ得ス

ト規定ス又同法第二十八條ニ於テハ左ノ通規定ス

「諸移民法」ナル語ハ前記ノ法律、本法竝ニ外國人ノ移住、排斥若ハ追放ニ關スル合衆國ノ一

切ノ法規、協約及條約ヲ包含ス

此場合ニ於ケル「前記ノ法律」トハ一九一七年来國移民法ヲ指ス

右諸規定ニ依リテ明カナルカ如ク米國移民法ノ範圍ナルモノハ頗ル廣汎ニ互リ現行移民法ノ範圍ヲ決定スルハ甚タ困難ナリ前記ノ如ク廣範圍ニ解釋セラレタル「諸移民法」中所謂「外國人ノ移住、排斥若ハ追放ニ關スル一切ノ法規」即チ狹義ノ移民法規ニ關シテモ單ニ米國ノ勞働省移民局發行ニ係ル Immigration Laws and Rules (United States Department of Labor) ニ收録セラレタル一八八五年二月米國移民法及其以後制定セラレタル法令ノミニテハ足ラス其他各種ノ外國移民取締法規(例之一九一八年十月十六日制定一九二〇年六月五日修正ノ無政府主義者取締法等)ヲモ之ニ加フルコトヲ要ス

右ノ外「諸移民法」中合衆國ノ「協約及條約」中ニハ米國カ各國ト締結セル通商航海條約ヲ始メ支那人勞働者排斥ノ移民條約其他各種ノ法規ニシテ勞働省發行 Treaty, Laws, and Rules Governing the Admission of Chinese, Oct. 1, 1926 中ニ包含セラレタルモノ全部及勞働省發行 Admission of Aliens into the United States ニ收録セラレタル外國人入國取締諸規則ヲ包含スルモノト見ルヘク且(事實上其閱覽ハ困難ナルモ)外部ニ公表セラレサル在外米國領事移民事務取

扱參考用ノ爲ノ訓令集乃至內規集ヲモ調査スルニ非スンハ米國移民法ノ研究ハ其完璧ヲ期スルコトヲ得サルヘシ

右ノ如ク移民法ハ誠ニ多岐ニ互リ複雑ニシテ且毎年之ニ修正法加ハリ行クヲ以テ勞働長官ハ一九三〇年々報 (Annual Report of the Secretary of Labor-Fiscal Year Ended June 30, 1930) ニ於テ現在移民制限ニ關シ「三十以上ノ法律アリ右ハ一ノ統一法トシテ其內或種ノ法律ニ改廢ヲ行ヒ友好關係ニアル國々ノ人々ニ對シ差別待遇ヲ與フルコトナクシテ且移民制限ノ目的ヲ達スル様適切ナル方法ヲ講スヘキ」旨勸奨スル所アリタリ

依ツテ本章第一節第二以下ニ於テ一九二四年移民法制定後之ニ加ヘラレタル修正ニ付其最モ本邦ニ關係深キモノニ付記述セントス

二、現行邦人入國規定

一九二四年移民法及其後ノ修正法ニ依ル邦人入國規定ヲ概説スレハ左ノ如シ(一九三二年四月現在)

(一) 一九二四年移民法第十三條(c)項ハ合衆國市民トナルコトヲ得サル外國人ハ左ノ場合ヲ除キ合衆國ニ入國スルコトヲ得サル旨ヲ規定セルヲ以テ左記ノ場合ヲ除キテハ邦人移民ノ入國ハ完

全ニ禁止セラル

(1) 第三條ニ定メタル非移民即チ

(イ) 政府ノ官吏竝ニ其家族、從者、僕婢及雇人

(ロ) 用務若ハ觀光ヲ目的トスル一時的旅行者

(ハ) 繼續的ニ合衆國ヲ通過スル者

(ニ) 適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル後合衆國ノ一地方ヨリ接壤外國領土ヲ通過シテ他ノ地方ニ赴ク者

(ホ) 合衆國ノ港ニ到着スル船舶ノ善意ナル海員ニシテ職務ノ爲一時的ニ入國セントスル者

(ヘ) 現行通商條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル者

(2) 第四條(b)(d)及(e)項ニ定メタル非歩合移民即チ

(イ) 曩ニ適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル移民ニシテ一時外國ニ赴キタル後歸還スル再渡航者

(ロ) 入國出願直前少クトモ二ケ年孰レノ宗教タルヲ問ハス布教師ノ職ニ在リシ者

(ハ) 入國出願直前少クトモ二ケ年大學、專門學校、宗教學校又ハ綜合大學ノ教授ノ職ニ在リ

シ者

(ニ) 前記(ロ)及(ハ)ノ移民ニ同伴若ハ呼寄せラレタル妻及十八歳未満ノ未婚ノ子

(ホ) 十五歳以上ノ善意ノ學生ニシテ勞働省ニヨリ公認セラレタル學校ニ入學セントスル者

(二) 右ノ外左記ノ者ハ米國ニ入國スルコトヲ得

(イ) 合衆國市民タル女子ニシテ一九二二年九月二十二日以前ニ於ケル外國人トノ婚姻ノ理由ヲ以テ市民權ヲ失ヒタル者ト雖モ移民査證出願ノ當時未婚ナル者(一九二八年五月二十九日第四條(f)項トシテ本規定追加セラレタリ從テ本項ハ日系市民タル女子ニシテ日本人ト婚姻シタルカ爲米國國籍ヲ失ヒタル者ニ適用セラレ之等ハ非歩合移民トシテ入國ヲ許可セラレヘシ)

(ロ) 日本移民ニシテ合衆國市民ト爲ルコトヲ得ル者(一九二四年移民法第十一條(b)項所謂「ナシヨナル・オリデン」條項ニヨリ日本ハ現在「ノミナル・クオータ」百ヲ有スル所白人ニシテ日本ノ國籍ヲ有スル者ハ之ヲ利用シテ渡米シ得ヘシ而シテ現ニ極少數ナカラ毎年日本ノ「クオータ」ニヨリテ入米シ居レリ)

(三) 敍上ノ如ク一九二四年移民法及其修正ニヨリ本邦人ノ入米ヲ規定シ居ル處元來米國ノ移民法

ノ意義竝ニ範圍ハ前述ノ通一九二四年移民法第二十五條及第二十八條ノ規定ニヨリ頗ル廣汎ニ互ルモノナレハ前記諸規定以外ニ於テモ例之一九一七年移民法第三條ニヨリ白痴、精神耗弱者、貧困者、浮浪者、各種ノ結核患者又ハ傳染病患者、無政府主義者、醜業者、公共ノ負擔トナルヘキ虞アル者、他人ニヨリ渡航ノ切符若ハ渡航費ヲ支拂ハレ又ハ他人ノ幫助ニヨリ渡米スル者等各種ノ入國禁止者ヲ例示シ入國者ヲ嚴格ニ取締リ居レリ殊ニ公共ノ負擔トナルヘキ虞アル者及他人ニヨリ渡航ノ切符云々ノ規定ニヨリ最近在米邦人ノ家族又ハ親族ニシテ前記一時的渡航者トシテ非移民ノ資格ヲ以テ渡米スル者ニシテ在本邦米國領事ニヨリ旅券査證ヲ拒絕セラルルモノ頻出シツツアリ

尙第三條ニ規定セル非移民中一時的旅行者タル入國者ニ關シ米國ノ外國人入國取締規則集タル Department of State, Admission of Aliens into the United States 第四十九項ニ左記ノ規定存スルカ爲其米國領事ニ査證ヲ請求スル際身許保證其他各種ノ書類ノ提出ヲ要求セラルルコト屢々アリ

49. In considering the applications of persons desiring to enter the United States as temporary visitors, cases will arise in which the appearance of the applicants and the circum-

stances surrounding them will occasion doubt as to their being entitled to nonimmigrant status. In every such case the consul should require conclusive evidence that the applicant has in fact a fixed domicile abroad which he has no intention of giving up and that he desires to enter the United States temporarily as a tourist or temporarily for business or pleasure.

第二、移民法第四條及第六條ノ修正

一九二四年米國移民法第四條非歩合移民ノ規定ハ前後二回ニ互リテ修正セラレタリ一九二六年七月三日第四條(d)項ノ修正竝ニ一九二八年五月二十九日ノ第四條(a)項ノ修正及第四條(f)項ノ追加即チ之ナリ而シテ之ト同時ニ第六條歩合移民査證優先權ニ關シテモ修正加ヘラレタリ

一、第四條(d)項ノ修正

(一) 一九二四年移民法第四條(d)項ハ

合衆國入國出願直前引續キ少クトモ二年間孰レノ宗教タルヲ問ハス僧侶ノ職ニ在リシ者又ハ大學校、專門學校、宗教學校又ハ綜合大學教授ノ職ニ在リシ者ニシテ單ニ其職ニ從事スル目的ヲ以テ入國セムトスル移民竝ニ其同伴者ハ呼寄セタル妻及十八歳未満ノ未婚ノ子ハ非歩合移民ナル旨規定ス即チ右ハ一九二四年七月一日以後入國スル僧侶教授竝ニ其妻及十八歳未満ノ子ニ適用セラルヘキ規定ニシテ右規定ニヨリ現在何時ニテモ僧侶竝ニ其妻及十八歳未満ノ

子ハ渡米スルコトヲ得ルハ明カナリ

然ルニ一九二六年七月三日ノ修正規定(附屬書第二百二十六號)第一條ハ

永住ノ目的ヲ以テ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル直前少クトモ二年間引續キ孰レノ宗教タルヲ問ハス僧侶ノ職ニ在リシ者又ハ大學、專門學校、宗教學校又ハ綜合大學教授ノ職ニ在リシ者ニシテ單ニ其職ニ從事スル目的ヲ以テ一九二四年七月一日以前ニ合衆國ニ入國シ現ニ合衆國ニ居住スル外國人ノ妻又ハ十八歳未滿ノ未婚ノ子ニシテ前記外國人ノ呼寄ニ依リ一九二七年七月一日前ニ合衆國ニ到着スル移民

ハ非步合移民ナル旨規定ス即チ右規定ハ一九二四年七月一日以前ニ入國シ現ニ米國ニ居住スル僧侶並ニ教授ノ妻又ハ十八歳未滿ノ未婚ノ子ニシテ呼寄ニヨリ一九二四年七月一日以後一九二七年七月一日以前ニ入國スルモノニ適用セララルヘキモノナリ

(二) 次ニ同修正規定第二條ハ一九二四年ノ移民法ノ規定ニ拘ラス勞働長官ハ左記外國人カ他ノ規定ニヨリ入國シ得ル者(otherwise admissible)ナルトキハ永住ヲ許可シ得ヘキ旨規定ス即チ

(イ) 永住ノ目的ヲ以テ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル直前少クトモ二年間引續キ孰レノ宗派タルヲ問ハス僧侶ノ職ニ在リシ者又ハ大學、專門學校、宗教學校又ハ綜合大學教授ノ職ニ在リ

シ者ニシテ單ニ其職ニ從事スル目的ヲ以テ一九二四年七月一日以前ニ合衆國ニ入國シ現ニ合衆國ニ居住スル外國人ノ妻又ハ十八歳未滿ノ未婚ノ子ニシテ

(ロ) 合衆國入國港ニ一九二四年五月二十六日ヨリ一九二四年七月一日ノ期間ニ於テ到着セル者ニシテ其後一時の入國ヲ許可セラレタル者

ハ非步合移民ナル旨規定ス右ハ一九二四年七月一日以前ニ入國シ現ニ米國ニ居住スル僧侶並ニ教授ノ妻又ハ十八歳未滿ノ未婚ノ子ニシテ一九二四年五月二十六日ヨリ同年七月一日ノ間ニ入國シ一時の入國者タリシ者ニ適用セララル規定ニシテ之等ノ者ハ右規定ニヨリ永住權ヲ與ヘラルルコトトナリタリ

以上ノ解釋ニヨリ修正法ノ第一條及第二條ノ適用範圍外ニアル者即チ一九二四年七月一日以前ニ入國シ現ニ米國ニ居住スル僧侶又ハ教授ニシテ前記修正法規定ノ期限タル一九二七年七月一日迄ニ妻子ヲ入國セシメ得サリシ者ハ改メテ一旦歸國シ再渡米スルトキハ第四條ノ原規定ニヨリテ妻子ヲ同伴又ハ呼寄スルコトヲ得ルコト明カナリ(前記(一)參照)

二、第四條(a)項ノ修正及同(f)項ノ追加

(一) 一九二四年米國移民法第四條(a)項ハ

第九條ニ定ムル願書ヲ提出スル當時合衆國ニ居住スル市民ノ十八歳未満ノ未婚ノ子又ハ妻タル移民

ハ非步合移民ナル旨規定ス然ルニ一九二八年五月二十九日ノ修正規定(附屬書第二百二十七號)ニヨリ右條項ハ左ノ通修正セラレタリ

合衆國ノ市民ノ二十一歳未満ノ未婚ノ子又ハ妻若ハ一九二八年六月一日以前ニ成立セル婚姻ニヨル合衆國市民ノ夫タル移民

右規定ニ關聯シ研究ヲ要スヘキハ合衆國市民ト婚姻セル日本婦人ノ地位ノ問題ナリ即チ本邦女子カ米國市民ト婚姻スル場合ニ於テハ一九二二年「ケーブル」法第二條(後掲出「ケーブル」法ノ條參照)ハ婚姻ノ效力トシテ外國人タル妻ノ國籍ヲ變更スルコトヲ認メス且日本人ハ米國ヘノ歸化權ヲモ有セサルカ故ニ依然トシテ日本人ナリ(日本國籍法第十八條參照)右合衆國市民ノ妻ハ右第四條(a)項ニヨリ非步合移民トシテ入國シ得ヘキヤ否ヤニ關シテハ解釋上議論アルヘキ所ナルモ實際上ノ取扱トシテハ他ノ條項ニヨリ入國可能ナル場合(例之第三條第二項)ヲ除キテハ右合衆國市民ノ妻ト雖モ第十三條(c)項ノ規定ニヨリ入國ヲ拒絕セラルルカ如シ(後掲出「ビンガム」法ノ條參照)

(二) 次ニ第四條(f)項トシテ新ニ左記規定ヲ追加シタリ

合衆國市民タル女子ニシテ一九二二年九月二十二日以前ニ於ケル外國人トノ婚姻ノ理由ヲ以テ市民權ヲ失ヒタル者ト雖モ移民査證出願ノ當時未婚ナル者

右ハ外國人トノ婚姻ニヨリ市民權ヲ喪失セル女子モ移民査證ノ出願ノ當時既ニ離婚シタル後ナル場合ハ非步合移民トシテ合衆國ニ歸來スルヲ得シムヘキ規定ナリ右規定ト日系米國婦人トノ關係ヲ見ルニ元來米國市民タル女子ハ一九二二年九月二十二日ノ所謂「ケーブル」法(後掲出「ケーブル」法ノ條參照)實施ニ至ル迄ハ一九〇七年三月二日ノ法律第三條ニ依リ外國人ト婚姻シタル場合ハ其夫ノ國籍ヲ取得シ米國市民權ヲ喪失セルカ故ニ右規定ニヨリ之等市民權喪失者ノ米國歸來ヲ容易ナラシメタルモノナリ其後右「ケーブル」法制定ノ結果米國市民タル女子ハ原則トシテ外國人トノ婚姻ニヨリ市民權ヲ喪失セサルコトニ改正セラレタリ但シ日本人ノ如ク歸化不能外國人ト婚姻スル場合ハ從前通市民權ヲ喪失スルコトトセルヲ以テ日系米國市民タル婦人ハ市民權喪失後米國入國ニ當リ困難ナル地位ニ置カレシ處一九三一年三月三日改正新「ケーブル」法ハ其ノ差別待遇ヲ撤去シ出生ニヨル米國市民タリシ女子ハ歸化權ヲ拒否セラルルコトナキニ至レルヲ以テ假令市民權喪失後ト雖モ第四條(a)項ノ規定アルニモ拘ラス米國ニ歸來スルコトヲ得ヘキ道開

ケタリ

三、第六條ノ修正

前記第四條(a)項ノ修正及(f)項ノ追加ト同時ニ第六條優先歩合移民ニ關スル規定モ一九二八年七月以後左ノ如ク修正セラレタリ

- (1) 各國民ニ割當テラレタル歩合ノ五割ヲ左記各項ニ該當スルモノニ對スル移民査證ニ振向ク
 - (イ) 二十一歳以上ノ米國市民ノ父母又ハ一九二八年五月三十一日後ノ婚姻ニ依ル夫
 - (ロ) 三百以上ノ歩合ヲ附與セラレタル國民ニ屬スルモノナル場合ニハ農業熟達者及其妻並ニ十八歳未滿ニシテ獨立セサル子女

- (2) 各國民ニ割當テラレタル歩合ノ他ノ五割ハ前記(一)ノ五割中査證發給ノ殘リト共ニ一括シテ米國ニ永住ノ目的ヲ以テ合法ニ入國セル同國民タル外國人ノ妻及未婚二十一歳未滿ノ子女ニシテ歩合移民タルモノニ對スル移民査證ニ振向ケ更ニ殘リアル場合ニハ同國民中ノ他ノ歩合移民ニ振向ク(附屬書第二百二十七號參照)

然レトモ右(f)項ノ追加ハ現在日本ニ割當テラレタル歩合力所謂「ノミナル・クオート」ナル關係上我國トハ直接重大ナル關係ナシ

第三、「ナショナル・オリヂン」條項

一、移民法改正運動ト入國歩合

一九二四年米國移民法第十三條(c)項ノ規定ニヨリ合衆國市民タルヘキ資格ナキ本邦人ハ同法第三條ノ非移民、同法第四條ノ非歩合移民(non-quota immigrants)及極少數ノ歩合移民(日本生レノ白人)ヲ除ク外米國入國ヲ禁止セラル從ツテ米國移民法中ニ移民ノ入國歩合(quotas)ニ關シ各種ノ規定ヲ設ケ且現在日本移民ニ對シ「ノミナル・クオート」百ヲ割當ツルモ第十三條(c)項ヲ撤廢セサル限リ前記ノ極少數ノ歩合移民ヲ除キテハ實質上何等ノ效果ナシ然レトモ最近米國ニ於テ移民法改正ヲ主張スルモノアリ殊ニ合衆國商業會議所ノ主唱ニヨル「移民法ヲ改正シ日本ニモ入國歩合ヲ適用スヘシ」ト爲ス改正運動ハ相當有力ニシテ注目ニ價スルモノアリト認メラルルニ付左ニ一九二四年移民法中ノ「クオート」ニ關スル規定ノ沿革殊ニ現行「ナショナル・オリヂン」條項及將來移民法改正セラレ入國歩合ヲ適用セラルヘキ場合ニ於ケル日本人ノ入國數ニ付記述スヘシ

二、舊入國歩合

一九二四年移民法制定當初ハ米國ニ渡來スヘキ各國ノ移民ノ入國歩合(quotas)ハ同法第十一條

(a) 項ニヨリ決定セラレタリ同項ハ一八九〇年ノ國勢調査ニヨル在合衆國大陸各國民ノ人口ノ二「バーセント」ヲ以テ各國ニ割當テタル「クオータ」トシ總數一六四、六六七人ヲ入米セシムルコトトセリ但シ右二「バーセント」カ百ニ滿タサル場合ハ最少限「クオータ」ノ百ニ引上ケタリ日本及其他東洋諸國人ハ前述ノ通第十三條(c) 項ニヨリ一般ニ入國ヲ禁止セラルルカ故ニ之等ニ對シテハ各最少限ノ「クオータ」百ヲ「ノミナル・クオータ」トシテ割當テタルカ右「クオータ」ハ生來ノ日本人ニハ何等ノ實益ナク唯此ハ日本ニ對スル「ノミナル・クオータ」ハ從來第十三條(c) 項ノ規定ニ牴觸セサル極少數ノ例外タル者即チ本邦ニ於テ出生シタル白人タル日本人ノミニヨリ利用セラレタリ

三、新入國歩合

一九二四年移民法第十一條(b) 項ハ一九二七年七月一日以後ニ於テハ「クオータ」ニ關スル計算方法ヲ變更シ新ニ所謂「ナシヨナル・オリヂン」ナル計算方法ヲ採用スヘキ旨ヲ規定ス即チ同項ニヨレハ毎年總數一五〇、〇〇〇人ヲ一九二〇年國勢調査ニヨル合衆國大陸居住者ノ舊本國別(National Origin) ニヨル人口數ニ按分比例シ各國ニ割當テタル數ヲ「ナシヨナル・オリヂン」ニヨル「クオータ」トシテ移民ノ入國ヲ許可スルコトトセリ且此場合ニ於テモ各國ノ「クオー

タ」ノ最少限ヲ百ト定メタリ從ツテ十五萬人ヲ各國ニ割當テタル後其「クオータ」カ百未滿ナリシ爲之ヲ百ニ引上ケタル結果實際ノ總計ハ十五萬人ヲ超過セリ右「ナシヨナル・オリヂン」條項ニ基ク「クオータ」ノ決定ニ關シテハ更ニ第十一條(c) (d) 及(e) ノ各項ニ於テ種々規定シ右「クオータ」ノ決定ハ國務長官、商務長官及勞働長官カ協同シテ之ニ當ルコトトナレリ仍ツテ三長官ノ任命セル六名ノ専門委員ハ之カ實施ノ準備トシテ先ツ統計歴史其他各種ノ材料ニ基キ詳細ナル調査ヲ行ヒタル結果報告ヲ作成シ始メテ之ヲ一九二七年一月米國議會ニ提出セリ右報告ノ附屬書タル各國割當ノ「クオータ」表ニ於テモ日本ハ「ノミナル・クオータ」トシテ最少限ノ百ヲ與ヘラレタリ然レトモ右「ナシヨナル・オリヂン」制度ノ實施ニ對シテハ議會内ニ反對論者アリ議會開會ノ度毎ニ右實施ノ延期ヲ圖リ容易ニ其實施ヲ見ルニ至ラス其間一九二九年二月十七日大統領「クーリッヂ」ハ同日附教書ト共ニ曩ニ一九二七年並ニ一九二八年議會ニ提出セル「クオータ」表ニ補正ヲ加ヘタル左記改正「クオータ」表ヲ議會ニ提出セリ

「ナシヨナル・オリヂン」條項ニ依ル各國割當移民數

Country of area	Quota
Afghanistan...	100

[illegible][illegible]

Morocco (French and Spanish Zones and Tangier)	...	...	...	...	100
Muscat (Oman) ...	...	...	...	...	100
Nauru (British mandate) ...	...	...	...	...	100
Nepal ...	...	...	...	...	100
Netherlands...	...	...	...	...	3,153
New Zealand (including appertaining islands)	...	...	...	...	100
Norway ...	...	...	...	...	2,377
New Guinea, territory of (including appertaining islands) (Australian mandate)	...	...	...	...	100
Palestine (with Trans-Jordan) (British mandate) ...	...	...	...	...	100
Persia ...	...	...	...	...	100
Poland...	...	...	...	...	6,524
Portugal ...	...	...	...	...	440
Ruanda and Urundi (Belgian mandate) ...	...	...	...	...	100
Rumania ...	...	...	...	...	295
Russia, European and Asiatic ...	...	...	...	...	2,784
Samoa, Western (mandate of New Zealand) ...	...	...	...	...	100
San Marino...	...	...	...	...	100

Siam ...	...	...	...	...	100
South Africa, Union of ...	...	...	...	...	100
Southwest Africa (mandate of the Union of South Africa)	...	...	...	...	100
Spain ...	...	...	...	...	252
Sweden ...	...	...	...	...	3,314
Switzerland ...	...	...	...	...	1,707
Syria and the Lebanon (French mandate) ...	...	...	...	...	123
Tanganyika (British mandate)...	...	...	...	...	100
Togoland (British mandate)	...	...	...	...	100
Togoland (French mandate)	...	...	...	...	100
Turkey ...	...	...	...	...	226
Yap and other Pacific islands under Japanese mandate	...	...	...	...	100
Yap and other Pacific islands under Japanese mandate	...	...	...	...	100
Total ...	...	...	...	...	153,714

然ルニ一九二九年二月議會ニ提出セラレタル右實施延期繼續ニ關スル決議案ハ三月四日ニ至ル
モ成立セス其儘議會ハ終了セリ茲ニ於テ一九二九年三月二十二日大統領「フーヴァー」ハ右實施

ニ關スル布告ヲ發シ同年七月一日ヨリ「ナショナル・オリヂン」條項ノ實施ヲ見ルニ至レリ但シ右條項ニ基キ日本ニ割當テラレタル「ノミナル・クオート」百ハ第十三條(c)項トノ關係上市民タルヘキ資格ナキ生來ノ日本人種タル移民ニ對シテハ何等ノ實益ナク依然トシテ唯僅ニ極少數ナル日本生レノ白人種タル移民ニ適用セラルルニ過キス現ニ最近毎年約二十五人ノ白人ハ右「ノミナル・クオート」ヲ利用シテ渡米シツツアリ

四、入國歩合適用ト日本移民ノ入國數

今假ニ移民法カ改正セラレ第十三條(c)項カ撤廢セラレタル後「ナショナル・オリヂン」條項ニヨリ本邦移民ニ割當テラルヘキ「クオート」ハ第十條(b)(c)(d)ノ各項及第十二條(a)等各種複雑ナル規定ニヨリ計算セラルヘキモノニシテ簡單ニ一九二〇年ニ於ケル國勢調査ニヨリ示サレタル合衆國大陸在住白人總人口九四、八二〇、九一五人及日本人タロ一一、〇一〇人(内日系市民二九、六七二人)ヲ基礎トシテ算出スルコトヲ得ス右「クオート」ニ關シテハ亦米國官憲側ニ於テ未タ何等正式ニ發表セルコトモナシ然ルニ一九三一年十月二日附ヲ以テ豫テ移民法修正運動ニ盡力中ナリシ合衆國商業會議所ノ理事會宛提出セル同會議所移民委員會ノ移民法修正問題ニ關スル報告書(後掲出合衆國商業會議所移民委員會ノ條參照)ニヨレハ日本ハ毎年約百八十五名ノ「クオー

タ」ヲ得ヘキ旨記載セリ但シ此數字ノ中ニハ日本出生ノ白人タル日本人モ包含セラル右報告書ノ作成ニ當リテハ移民法ニ精通スル專門ノ法律家ハ素ヨリ米國勞働省ノ係官ノ意見ヲモ參酌シタリト云ヘハ本件ニ關シテハ最モ正確ナル數字ナリト認ムヘキモノナリ

因ニ移民法中ノ所謂排斥條項ヲ撤廢シタル後日本ニ割當テラルヘキ「クオート」ノ算出法カ複雑ナル一因ハ米國國勢調査報告中ニ於テ移民法ノ各條項ニ該當スヘキ適確ナル統計ヲ抽出スルコトノ難キニアリ今試ミニ移民法修正ノ場合ヲ考察センカ左ノ二箇ノ場合ヲ想像シ得ヘシ

- (イ) 第十三條(c)項ヲ削除シ第十一條(d)項(二)ヲ存置スル場合
- (ロ) 第十三條(c)項及第十一條(d)項(二)ヲ共ニ削除スル場合

(イ)ノ場合ニ於テハ一九二〇年合衆國大陸在住日本人數(第十一條(c)項及第十二條(a)項ニヨリ米國出生ノ日系市民ヲ除キ日本出生ノ白人タル日本人ヲ加フ)カ一九二〇年合衆國大陸ノ住民數(白人總人口ヨリ第十一條(d)項(一)ノ白人ヲ除ク)ニ對シテ有スル率ヲ十五萬人ニ對シテ有スル數ヲ以テ「クオート」トナスヘク又(ロ)ノ場合ニ於テハ一九二〇年在合衆國大陸日本人數(第十一條(c)項及第十二條(a)項ニヨリ米國出生ノ日本市民ヲ除キ日本出生ノ白人タル日本人ヲ加フ)カ一九二〇年合衆國大陸ノ住民數(白人總人口ヨリ第十一條(d)項(一)ノ白人ヲ除キ同條(d)項(二)

ノ東洋人及其子孫ヲ之ニ加フニ對シテ有スル率ヲ十五萬人ニ對シテ有スル數ヲ以テ「クオータ」トナスヘキナリ又右(イ)(ロ)兩者ノ計算ニ於テ日本出生ノ白人タル日本人ハ一九二〇年合衆國大陸住民中ヨリ除去スヘキモノナルヤニ認メラル

以上ノ如キ計算方法ヲ用フルトセハ右(イ)(ロ)ノ各場合ニ適確ニ該當スヘキ統計的數字ハ米國ノ國勢調査報告書中ニ之アルナシ依ツテ前記ノ百八十五人ヲ以テ比較的正確ナルモノト見ルノ外ナキ次第ナリ

第四、「ビンガム」法

一、支那系米國市民ノ支那人妻呼寄問題

一九二四年五月二十六日米國新移民法制定前ニ在リテハ入國資格アル外國人、從來適法ニ入國ヲ許サレタル外國人又ハ合衆國市民ハ一九一七年五月一日實施ノ移民法第三條ニ依リ妻ノ呼寄ヲ認メラレ我方關係ニ於テモ紳士協約ニヨリ勞働者ト雖モ同様ナリシ處一九二四年ノ米國移民法實施ノ結果妻ノ呼寄ハ少數ノ例外ヲ除キ不可能トナレリ

之カ爲最モ苦痛ヲ感シタルハ支那系米國市民ニシテ其支那人妻 (Chinese wife) ノ呼寄ハ原則トシテ不可能トナリ忽チ不都合ナル結果ヲ招來シ之カ救濟ヲ爲スノ必要ニ迫ラレタリ (支那人妻ノ入

國問題ノ詳細ニ關シテハ後掲出「條約上ノ商人竝ニ其妻ノ入國問題」ノ條參照)

元來支那人妻ノ呼寄ハ一八八〇年ノ米支通商條約第二條ノ解釋上果シテ不可能ナリヤ否ヤニ關シ疑點アリシ處一九〇〇年二月二十六日米國大審院ハ一八八二年支那人排斥法規中除外セラレタル者ノ入國ヲ適法ト判決シタリ (支那人妻 Mrs. Gue Lim 事件) 依テ支那人妻ニ就テモ前記ノ一九一七年移民法第三條ハ適用セラルヘキモノニシテ其呼寄ハ自由ニ之ヲ行フコトヲ得タリ然ルニ一九二四年ノ移民法第十三條(e)項ニハ合衆國市民トナルコトヲ得サル外國人ハ(イ)第三條所定ノ非移民(ロ)第四條(b)(d)(e)項所定ノ非步合移民及同條(d)項ニヨリ入國シ得ヘキ非步合移民ノ妻子以外ハ合衆國ニ入國スルコトヲ禁止シタルヲ以テ米國勞働省ハ米國市民ト雖モ歸化權ヲ有セサル妻ノ呼寄ハ許サスト主張シ更ニ在米支那商人ハ同法第三條六項ノ非移民トシテ入國ヲ許スモ同條ハ其妻ノ入國ヲモ認メタルモノニハ非ストシ在米支那商人ノ支那人妻呼寄モ許可スヘキ限リニ非ストノ見解ヲ持シタリシカ此第二ノ點ニ關シ一九二五年五月二十五日米國大審院ハ同移民法ノ規定ハ從前條約ノ規定ニ依リ在米支那商人ノ妻カ米國ニ入國シ得タル權利ヲ奪フモノニ非ストテ反對ノ判決ヲ下シタリ (支那人妻 Mrs. Cheung Sum Shee 事件)

其結果在米支那商人ハ(國內商人ト國際商人ノ別ナク)其支那人タル妻ヲ呼寄スルコト可能トナ

レルモ支那系米國市民カ其支那人妻ヲ呼寄セントスル場合ハ第十三條(c)項トノ關係上其婦人カ米國出生ノ者又ハ支那系米國市民ノ妻カ米國市民タリ得ヘキ人種ニ屬スルモノニ非サル限り不可能トナリタリ

尤モ前顯判決後一九二六年十月一日勞働省支那人入國ニ關スル移民規則第二條第一項(二)發布セラレ支那商人ノ入國及妻呼寄ニ關スル範圍稍縮少セラレ(イ)米支通商條約ノ規定ニ準據シテ單ニ商業(米國側ハ國際商業ナリトノ見解ヲ採ル)ヲ營ム目的ヲ以テ入國セントスルモノ竝ニ其妻及未成年ノ子或ハ(ロ)一九二四年七月一日以前ヨリ米國ニ適法ニ居住スル商人(此場合ハ國內商業ト國際商業タルヲ問ハス)ニ同伴又ハ呼寄セラルル妻又ハ未成年ノ子ハ入國シ得ヘキ旨ヲ定メタリ然レドモ右改正後ト雖モ猶支那商人ハ支那系米國市民ニ比シ寬大有利ナル取扱ヲ受ケツツアリタルヲ以テ米國勞働省移民局總監ノ一九二七年ノ報告ニ於テ右ノ點ヲ指摘シ移民法ハ外國人ニ對シ米國市民ニ勝ル權利ヲ附與スル趣旨ニハ非サルヘシトノ見解ヲ公ニシタルコトアリ

二、「ビンガム」法制定ノ經緯

前述ノ通一九二四年移民法制定ノ結果支那系米國市民ノ支那人タル妻ハ原則トシテ入國シ得サルニ至リタルカ支那系米人ハ同法實施ノ直後ヨリ修正運動ヲ開始シ沿岸方面ニテハ米國忠誠團體ヲ

組織シ其代表者ヲ華府ニ派遣シ「ヒヤリング」ニ出席シ陳情スル一方加州選出下院議員「カーン」夫人等ニ對シ後援ヲ求メツツアリタル處一九三〇年ニ至リ一九二四年移民法第十三條(c)項ニ追加修正ヲ施シ米國市民(米國ニ出生セル支那人タルト白人種タルトヲ問ハス)ノ支那人妻ニシテ其結婚カ一九二四年五月二十六日移民法ノ裁可以前ニ成立シ居リタルモノニ限り入國ヲ許可スヘキ法案第七十一議會第二會期ニ於テ「コネティカット」州選出上院議員「ビンガム」(Bingham)ニ依リテ提出セラレ五月十二日上院ヲ通過六月九日下院ヲ通過シ六月十三日大統領ノ裁可ヲ經テ公布セラレタリ(附屬書第二百二十八號)

本案提出者「ビンガム」ハ嘗テ布哇ニ於テ支那人ノ利益ノ爲盡力シタルコトアル由ニテ支那人妻ノ入國ニ關シテモ今回始メテ之ヲ提案シタルニ非ス數年來度々同種ノ案ヲ持出シ居リタルモノナリ本修正案ニ關スル上院移民委員會ノ報告書竝ニ下院ニ於テ本案審議ノ際ノ議事録ニ徵スルニ支那系米國市民ト一九二四年以前ニ結婚シ居リタル支那婦人ニシテ移民法通過當時現ニ米國渡航ノ爲航海中ニアリタル者及同法施行後着米シタル者三十五名ニ及ヒタル事實アリ斯ル實狀ハ當時委員會ノ全ク想到セサリシ所ニシテ之等ハ米國到着ノ際「ボンド」ニヨリ臨機上陸ヲ許可セラレ今尙「ボンド」ノ下ニ滯米シ居ル處其後子女ヲ設ケタルモノ大部分ニシテ之ヲ支那ニ歸還セシムル

ハ人道に忍ヒサルモノアリ依テ之等ノ入國ヲ許可セントスルカ本案ノ主要目的ニシテ右以外ニモ一九二四年以前ノ結婚ニ係ル支那人妻ナキニ非サルモ極メテ少數ナル趣ナリ本修正案カ下院ニ於テ審議セラレタル際「フロリダ」州選出議員「グリーン」カ反對意見ヲ述ヘタルニ對シ移民委員長タル華州選出議員「ジョンソン」ハ「本法案ハ委員會ノ手許ニ今尙殘留スル支那系米國市民カ何時ニテモ支那ニ赴キ結婚ノ上妻同伴歸米スルヲ許容セントスル法案トハ別箇ノ法案ナルニ付誤解ナキヲ望ム米國ヲ出來ル丈「ホモジニアス」ニ維持セントスル根本方針ニ至リテハ自分モ全然同感ナルモ一億二千萬ノ人口ヲ有スル米國トシテハ或種米國市民ノ妻ヲ追加入國セシムルモ容易ニ之ヲ同化シ得ヘシ」ト說キテ反對ヲ撤回セシメタル上進ミテ「本法案ハ一部の救済ニシテ尙不充分ナルニ付他日自分ノ原案ニ從ヒ米國市民タルモノハ既ニ結婚シ居ルト將來結婚スルモノナルトハ問ハス何時ニテモ其支那人妻ヲ米國ニ連レ來リ得ヘキ様法律ヲ修正スルノ要アリ然ラスンハ米國市民タル者ニ對シ實ニ殘酷ナリ本法ハ過去數年間議會ノ懸案タリ本件ニ關シ當初吾人ノ注意ヲ喚起シタルモノハ支那系米國市民ノ組織スル支米市民同盟ナリ惟フニ議會ハ一九二四年五月二十六日ノ移民法ヲ通過セル際米國市民ノ支那人妻ヲ排斥スルノ意圖アリタルニ非サルヘキモ大審院ニヨリ然カ決定セラレタル今日ニ於テ右缺陷ヲ匡正スルノ方途ハ立法ニ依ルノ外無シ本案ハ之カ端緒

ナリ」ト述ヘ居レリ

尙當時議會ノ討議ニ際シ引用セラレタル總監ノ報告ニ徴スレハ移民法施行前四年間ノ入米支那人妻ハ左ノ通ナリ（會計年度ニ依ル）

一九二一年	二九〇
一九二二年	三九六
一九二三年	三八七
一九二四年	三九六

三、「ビンガム」法ニ對スル在米日本人團體ノ態度

支那系米人ノ過去數年ニ互ル修正運動中日系第二世ニ對シテモ協同運動ヲ求メ來リシモ日系米人トシテハ右支那系米人ノ運動ニ對シ別ニ利害關係ヲ感セサリシモノノ如ク之ニ應スル者ナク其儘トナリ居タリ

蓋シ日本人妻ニ就テハ新移民法實施前殆ト全部入米セルモノカ從來此種ノ苦情無ク結局支那系米人ノミノ問題トシテ一九三〇年ノ議會ニ於テハ左迄論議沸騰セスシテ本法ノ成立ヲ見タリ

四、本法制定後ノ狀態

右「ビンガム」法制定ニ刺戟セラレ一九三〇年七月一日布哇選出議員「ヒューストン」ハ米國下院ニ於テ之ヲ修正シ「支那人」ナル語ヲ削除シ之ヲ一般的ニ米國市民ノ妻タル歸化不能外人ニ及ホサントスル法案ヲ提出シタルモ移民委員會附託ノ儘議會ハ閉會スルニ至レリ一九三一年三月ニ至リ布哇縣會ニ於テ前述移民法修正ニヨル利益ヲ支那人ニ限リ他ノ人種ニ及ホササルハ公正ヲ缺クモノトシ前記「ヒューストン」提出ノ修正案採用方ヲ合衆國議會ニ申請スル合同決議案ヲ通過シ同月十六日布哇知事ノ承認ヲ得タリ

其他米人親日家中一部ノ者ニ日本人第二世ニハ移民法制定前ノ結婚ナル條件ヲ附セス本國ニ歸國シテ結婚シタル日本人ノ妻ヲ呼寄スル道ヲ拓キタシトノ運動ヲ爲スモノアリタリ

第五、「ケーブル」法修正

移民法ト密接ナル關係ヲ有スル米國ニ於ケル既婚婦人ノ歸化及市民權ニ關スル一九二二年九月二十二日ノ法律（所謂「ケーブル」法）ハ一九三〇年法律第四九九號（附屬書第二百二十九號）竝ニ同第五八號（附屬書第三百三十號）ニ依テ一部ノ修正ヲ見タルカ一九三一年三月三日米國議會ヲ通過シ三月四日大統領ノ裁可ヲ經タル國籍取得申請手續ニ關スル法律第八二九號（附屬書第三百一號）ニ依リ更ニ修正ヲ加ヘラレタリ元來米國市民タル婦人ハ所謂「ケーブル」法（附屬書第百

三十二號）實施ニ至ル迄ハ一九〇七年三月二日ノ法律第三條（附屬書第三百三十三號）ニ依リ外國人ト婚姻シタル場合其夫ノ國籍ヲ取得シ米國市民權ヲ喪失セルモノナルカ右「ケーブル」法ハ右ノ規定ヲ廢止シ原則トシテ市民權ヲ維持スルコトニ改正セリ但シ歸化不能外國人ト婚姻スル場合ハ從前通市民權ヲ喪失スルコトトセルヲ以テ日系米國市民タル婦人ハ依然トシテ困難ナル地位ニ置カレタリ（例之本邦人ト結婚後外國ニ居住シ歸米スル場合殊ニ外國ニ於テ離婚後歸米スル場合等）然ルニ前顯一九三一年三月三日ノ修正ハ之ニ改善ヲ加ヘ米國市民タル日系婦人モ他ノ米國市民タル婦人ト同様ノ取扱ヲ受クルコトト爲シ從來ノ差別待遇ヲ撤去セリ從來ノ關係法令及新修正法ノ要項ヲ摘記スレハ左ノ如シ

（一）一九二二年法（所謂「ケーブル」法）ノ概要

（イ）外國婦人ニシテ其夫カ米國へ歸化シタル者ハ其婚姻又ハ夫ノ歸化ニ依リ當然米國市民權ヲ取得スルコトナシ但シ歸化權アル婦人ハ一定ノ手續ニ從ヒ歸化スルコトヲ得

（ロ）米國市民タル婦人ニシテ外國人ト婚姻シタル者ハ外國人歸化關係事項管轄裁判所ニ對シ市民權拋棄ノ手續ヲ爲スニ非サレハ其婚姻ニ依リ市民權ヲ喪失スルコトナシ但シ歸化權無キ外國人ト婚姻シタル場合ハ米國市民權ヲ喪失ス

(ハ) 歸化權アル外國人ト婚姻シ舊法ニ依リ市民權ヲ喪失シタル婦人ハ一定ノ手續ニヨリ歸化スルコトヲ得

(ニ) 歸化權ナキ外國人ヲ夫トスル婦人ハ其婚姻繼續中ハ歸化スルコトヲ得ス

之ヲ邦人關係ヨリ見ルニ米國市民タル婦人ハ日系タルト否トヲ問ハス日本人ト婚姻スルトキハ其市民權ヲ喪失シ婚姻繼續中ハ歸化スルコト能ハス又米國市民タル日系婦人ト日本人トノ婚姻ノ場合ヲ考フルニ婦人ハ婚姻ニ依リ市民權ヲ喪失シ婚姻繼續中歸化スルコトヲ得サルノミナラス其解消後ト雖モ歸化不能外國人タル理由ニ依リ國籍回復ヲ困難トセリ故ニ右法律ハ在米邦人ト米國市民タル日系婦人トノ婚姻ニハ特別ナル障礙ヲ爲セリ

(二) 一九三〇年修正法 一九三〇年法律第四九九號並第五〇八號ハ前述ノ通一九二二年ノ法律ノ一部ヲ修正セルモノナルカ歸化可能ナル外國人ト婚姻セル米國市民タル婦人ノ立場ヲ改善シ米國市民權喪失ノ機會ヲ少クシ又舊法ニ依リ市民權ヲ喪失シタル米國婦人ノ市民權回復ノ手續ヲ簡易ナラシメタルモノニシテ邦人ニ對シテハ利害關係少シ

(三) 一九三一年修正法 一九三〇年ヨリ一九三一年ニ互ル米國議會ニ於テハ國籍及歸化ニ關シ下院議員「ケーブル」ヨリ數個ノ法案提出セラレタルカ下院移民委員會ニ附議セラレタル儘何等

進展ヲ示ササリシ處其中ノ一案 (H.R. 10672) ハ上院移民委員會ニ於テ國籍取得申請手續ニ關スル法案(一九三一年一月五日下院通過) 審議ニ際シ其修正ノ形ニ於テ同法案第四條トシテ挿入セラレタリ同法案ハ一九三一年二月二十六日上院本會議ノ可決ヲ經テ兩院協議會ニ附セラレタル後三月三日上下兩院ヲ夫々異議ナク通過シ同四日大統領ノ裁可ヲ得タリ

同法第四條ハ一九二二年九月二十二日ノ法律(所謂「ケーブル」法) 第三條ヲ修正シ第五條ヲ廢止セルモノニシテ其要領左ノ通

(イ) 米國市民タル婦人ハ外國人歸化關係事項管轄裁判所ニ對シ市民權拋棄ノ手續ヲ爲ササル限り婚姻ニ依リ米國市民權ヲ喪失スルコトナシ

(ロ) 舊法規定ノ結果外國人ト婚姻後海外ニ居住セル爲又ハ歸化不能ノ外國人ト婚姻セル爲米國市民權ヲ喪失シタル婦人ハ自ラ他國ノ國籍ヲ取得セサリシ場合ハ一定ノ簡易ナル手續ニ從ヒ歸化スルコトヲ得

(ハ) 出生ニ依リ米國市民タリシ婦人ハ人種的理由ニ依リ歸化權ヲ拒否セラルルコトナシ

(ニ) 單ニ米國市民トノ婚姻ニ依リ又ハ夫ノ米國市民權取得ニ依リ米國市民權ヲ取得スル婦人ハ右簡易手續ニ依ル歸化權ナシ

(ホ) 歸化權ナキ夫ヲ有スル婦人ト雖モ婚姻繼續中歸化スルヲ妨ケス

右ニ依レハ米國市民タル日系婦人ハ歸化不能ノ外國人ト婚姻スルモ米國市民權ヲ保有シ得ルノミナラス既ニ歸化不能ノ外國人トノ婚姻ニ依リ米國市民權ヲ喪失シタル場合モ容易ニ之ヲ回復シ得ルコトナレルカ故ニ從前在米邦人ト米國市民タル日系婦人トノ婚姻ヲ困難ナラシメタル國籍法上ノ障礙ハ茲ニ全ク除カルコトナレリ

第六、其他ノ修正及修正案

前記ノ外移民法及關係法規ニシテ修正又ハ追加セラレテ Immigration Laws and Rules of January 1, 1930 及 Amendments to Immigration Laws Enacted since Compilation of January 1, 1930 ニ收録セラルルモノ相當數ニ上ルモ之等ハ概ネ殆ト邦人入國トハ關係薄キモノナレハ之カ記述ヲ省略ス

但シ右ノ外一九三〇年ヨリ三一年ニ互ル第七十一回米國議會ニ提出セラレタル移民入國一時停止ニ關スル諸法案アリタルモ之等ハ結局全部否決又ハ握潰トナリタリ右法案ハ主トシテ現下ノ經濟界ノ不況ヲ理由トスルモノ多ク且本邦ノ如ク少數ナル非移民及非歩合移民以外一般移民(現在「クオータ」ニヨリ入國スル日本出生ノ白人種タル極少數ノ日本人ヲ例外トス)ヲ送ラサル國ニトリ

テハ直接重要ナル關係ナキモ右法案中「クオータ」制度ニ關係アルモノアリ依ツテ將來本邦ニ「クオータ」ヲ適用スル場合ヲ豫想シ何等參考ノ爲之等ニ關シ其概要ヲ記述セントス
一、「リード」決議案

一九三〇年十一月二十四日上院議員「リード」ハ財界不況ニ伴フ失業問題對策ノ一方法トシテ移民入國一時停止ヲ議會ニ提案スル意アル旨ヲ新聞紙上ニ聲明セルカ同案ハ共同決議案(附屬書第百三十四號)トシテ十二月二日上院ニ提出セラレタリ其内容左ノ通

(一) 現ニ米國ニ居住スル者ノ直接ノ家族ヲ除キ新移民ノ渡來ヲ一九三一年七月一日以降二ケ年間全ク停止スルコト

(二) 右ハ何等一九二四年移民法ニ現ハルル移民政策ヲ變更シ又ハ其基礎タル「ナショナル・オリヂン」ノ原則ヲ弱ムルモノニ非ス現在ノ「クオータ」ハ現行法上所謂「ノン・クオータ」及「クオータ・プレフェレンス」ニ屬スル家族ノ入國ヲ依然支配スヘク其家族トハ即チ米國市民ノ二十一年以下ナル未婚ノ子女、夫妻及米國市民ノ兩親ヲ含ム

(三) 同期間中比律賓移民ヲ排斥ス

(四) 大統領ノ訓令ニ基キ國務省及勞働省カ實行シタル公共負擔條項ノ適用ニ依ル移民ノ制限カ有

效ナリシハ之ヲ認ムルモ決議案ハ行政手段ニ優ルコト萬々ナリ

(五) 移民制限ハ政黨問題ニ非サルヲ以テ全院一致通過スヘキヲ疑ハス

二、「ジョンソン」決議案

十二月三日華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」モ亦内容略々同一ナルモ停止期間ヲ五ケ年トシ米國市民ノ家族ノ外適法ニ入國セル外國人ノ家族ヲモ除外的ニ入國セシメントスル點ニ於テ米國市民ノ家族ノミヲ入國セシメントスル「リード」案ヨリモ稍々寛大ナル共同決議案(附屬書第三百三十五號)ヲ下院ニ提出セリ右決議案ハ「リード」決議案ト同様特定ノ家族ヲ除キ一般移民ハ之カ入國ヲ停止セントスルモノニシテ右ハ西半球諸國ニモ適用セラルヘク又比島人ハ之ヲ各國人ト看做シテ其ノ移住ヲ禁セントスルモノナルカ日本人其他東洋人ニ對シテハ何等言及シ居ラス

三、「リード」決議案ニ對スル反響

「リード」決議案ニ關シ米國勞働總同盟會長「グリーン」ハ經濟界不況ノ際相當期間「クオート」移民ヲ停止スヘキハ吾人從前ヨリノ主張ニシテ二年ハ寧ろ短キニ過クト述ヘ加州聯合移民委員會ハ十二月三日「リード」案支持ノ決議ヲ爲シ尙「リード」ニ打電シテ布哇カ多年歸化不能外國人

ヲ入國セシメタル結果白人種ハ影ヲ潛メ全人口ノ三分ノ二以上ハ亞細亞人種ニシテ又大陸轉航ノ自由ヲ有シ居ル現狀ナルニ鑑ミ苟クモ同島ヘノ比島移民入國ニ對シ除外例ヲ設ケントスルカ如キ提案ニハ極力反對スヘキ旨ヲ申送レリト傳ヘラレタリ

四、米國政府ノ態度

十二月二日大統領ハ議會ニ敎書ヲ送り移民問題ニ關シ現在ノ失業狀態ニ鑑ミ移民ヲ更ニ制限且選擇シ得ル様現行移民法ヲ改正スル必要アル處應急ノ措置トシテ移民查證ニ制限ヲ加ヘタル結果其數一ヶ月平均二萬四千ヨリ七千ニ減少セルカ移民問題ハ全體トシテ再審議ノ要アリト述ヘ勞働長官ハ議會ニ對スル一九三〇年度年報ニ於テ現行移民法ノ缺點ヲ指摘シ之カ改正ノ必要ニ關シ大要左ノ通述ヘタリ

(一) 米國產業界ノ必要ニ應シ各國移民ヲ其割當歩合内ニ於テ隨意ニ選擇スルコトハ現行法ノ下ニ於テハ實行不可能ナルニ付移民查證ハ凡テ勞働長官ノ許可ヲ俟テ發給スルノ制度トシ之ヲ歐洲歩合國タルト米大陸ニ於ケル歩合制限外諸國タルトヲ問ハス一樣ニ適用スルコト

(二) 移民法ハ約三十ノ雜多ナル法規ヨリ成リ重複矛盾尠カラサルニ付之カ統一編纂ノ必要緊切ナリ又其際友好諸國ニ對スル差別的規定ハ之ヲ削除スルコト

- (三) 現ニ歐洲ニ適用シツツアル歩合制度ハ之ヲ適宜「アジャスト」スルニ於テハ東洋移民ニ關シテモ從來ノ種々ノ法規ニ比シ更ニ完全ナル「コントロール」ノ手段タリ得ヘキヲ以テ歩合制度ヲ「アジャスト」シ之ヲ支那人其他ノ東洋移民ノミニ關スル諸般ノ法規ニ代ラシムルコト甚タ望マシ如何トナレハ之等ノ規定ハ多ク無用ニシテ運用上障礙トナルモノスラアルヲ以テナリ尤モ右立法ニ當リテハ移民制限勵行ニ關スル一般原則ヲ保存スル様充分注意ヲ要ス
- 五、「ジョンソン」新決議案

前述兩案ハ上院竝ニ下院移民委員會ニ於テ夫々審議ヲ加ヘタル處其結果「ジョンソン」ハ原案ヲ根據トシテ新ナル共同決議案（附屬書第三百三十六號）ヲ起草シ之ヲ下院ニ提出シタリ下院移民委員會ハ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタル上十二月十六日本案ヲ可決シ下院ニ報告スルコトニ決定セリ新案ノ原案ニ比シ異ナル主ナル點ハ左ノ三ナリ

- (一) 移民停止期間ハ原案ニ於テハ五年ナリシカ新案ハ之ヲ二年トス
- (二) 原案ニ於テハ現在ノ「クオータ」問題ニ觸レサリシカ新案ニ於テハ家族等ノ「プレフェレンス」條項ニ屬スルモノ（第六條ノ規定）ニ對スル查證ヲ現在「クオータ」ノ五割ニ制限ス
- (三) 米國ニ適法ニ入國シタル外國人ノ家族ハ原案ニ於テハ查證停止ヲ受クヘキモノナリシカ新案

ニ於テハ除外例トシテ入國セシムルモノノ内ニ加ヘタリ

右新提案ハ要スルニ二ケ年間勞働移民ヲ全然停止シ家族等ニ關シテハ歐洲諸國ハ現在歩合ノ半數迄入國ヲ認メ現ニ歩合制限無キ西半球諸國ニ對シテハ無制限ニ入國ヲ許可シ比島移民ハ外國移民トシテ取扱ヒ除外規定ニ該當スルモノノ外米大陸移住ヲ禁止セントスルモノナリ

六、「リード」案ニ關スル討議

右ノ如ク下院移民委員會ハ「ジョンソン」新案ヲ採用スルニ決シタルカ一方「リード」案ニ對シテハ十二月十八日上院移民委員會聽取會ヲ開キ各方面ノ意見ヲ徵シタルカ席上「スティムソン」國務長官ハ「ジョンソン」案「リード」案ノ何レカ通過スルモ現行移民法上歩合制限ノ基礎タル「ナショナル・オリヂン」ノ原則ハ根本ヨリ覆サルルニ至ルヘキヲ指摘シ寧ロ現行歩合ニ對シ一律九十「パーセント」切リ下ケヲ爲ス方優レリトノ意見ヲ述ヘタリ即チ「ジョンソン」案ハ米國市民ノ家族ノ外適法ニ入國セル外國人ノ家族ノミヲ入國セシメントスル「リード」案ヨリモ寛大ナルモ元來北部及西部歐洲移民ハ當初ヨリ家族同伴移住シ來ル習慣ナルニ反シ東部及南部歐洲移民ハ家族ヲ殘シ單身移住シ後日家族ノ呼寄ヲナス慣習ナルヲ以テ東部及南部歐洲ニ於テハ多數ノ家族力渡米ノ希望ヲ以テ查證請願ノ手續ヲ履ミツツアルカ爲事實上歩合ノ全部ハ之等家族ニ依テ充タサレ

ツツアリ依ツテ現行「ナシヨナル・オリヂン」ノ制度ノ下ニ於テハ北及西歐洲移民ノ南及東歐洲移民ニ對スル比率ハ五對一ナルニ拘ラス「ジョンソン」案成立ノ場合ニハ其比率ハ二對三トナリ「リード」案成立ノ場合ニハ其比率カ一對十六トナルヘシト指摘シタリ

右「ステイムソン」長官ノ意見ノ陳述ニヨリ「リード」議員自ラ其ノ豫期セサル結果ヲ生スルニ一驚ヲ喫シ本案ニ一頓挫ヲ來シタリ

七、「フリー」及「ジェンキンス」兩決議案

十二月二十日下院移民委員會ノ一員タル加州選出議員「フリー」ハ曩ニ國務長官カ陳述セル意見ニ類似セル移民制限法案ヲ提出シ右ハ二十一日下院移民委員會ノ採用スル所トナリタリ（附屬書第三百三十七號）其ノ内容ハ大體歐洲移民ハ現在ノ歩合ノ一割、西半球移民ハ一九三〇年度ノ查證數ノ一割ニ制限シ比島移民ノ入國數ハ五百名ニ限定セントスルモノニシテ期間ハ二ケ年ナルカ日本人ニ關シテハ何等言及シ居ラサルモノナリ

然ルニ同法案ハ比島移民制限條項ヲ含ミ居ル爲其後ニ至リ相當反對意見ヲ生シ同案ノ審議ヲ進ムルコト困難ナル形勢トナリ同法案ヨリ比島移民制限條項ヲ削除セル「ジェンキンス」法案新ニ提出セラレ二日同案ハ下院ヲ通過シ上院ニ回付セラレタルモ上院ノ通過ヲ見スシテ議會ハ三月四日

ヲ以テ會期終了セリ（附屬書第三百三十八號）

八、其他ノ法案

其他本會期中下院ニ提出セラレタル移民法關係法案左ノ通

- (イ) 十ケ年間歩合移民停止法案 (H.R. 13554)
- 「オクラホマ」州選出下院議員「マクリニク」(民主黨)提出
- (ロ) 米國ト外交關係無キ國ヨリノ移民禁止法案 (H.R. 13565)
- 「ウエスト・ヴァージニア」州選出下院議員「バクマン」(共和黨)提出
- (ハ) 米國ニ於テ必要トセサル勞働者ニ查證ヲ拒否スル法案 (H.R. 14037)
- 「オハイオ」州選出下院議員「ケーブル」(共和黨)提出
- (ニ) 五ケ年間比島移民制限法案 (H.R. 13535)
- 加州選出下院議員「ウエルチ」(共和黨)提出
- (ホ) 米領「ヴァージン」諸島ニ特定土人ノ入國ヲ認メントスル法案 (H.R. 14035)
- 「イリノイ」州選出下院議員「ブリテン」(共和黨)提出

第七、第七十二議會第一會期ニ於ケル移民法修正

一九三一年十二月八日米國大統領「フーヴァー」ハ第七十二議會（一九三一—三二年）ニ對スル教書中ニ於テ移民並ニ追放問題ニ關シ（イ）現ニ行政措置ニヨリ實行シツツアル移民數制限ニ確タル法律的基础ヲ與フルコト（ロ）追放ニ關スル法律ノ強化（ハ）居住證ノ發給ニヨリ適法ニ入國セル外國人ヲ保護スルコトノ三點ヲ勸奨セルカ七月十六日閉會セル第七十二議會第一會期ニ於テ上下兩院ニ提出セラレタル移民關係法案（歸化及國籍關係法案ヲモ含ム）合計百二十一件ニ上リ中法律トナリタルモノハ八件ニシテ他ハ一九三二年十二月開會ノ第二會期ニ持越サルルコトナリタリ

（一）法律トナリタル八件左ノ通

（1）一九二四年移民法第三條（六）ヲ修正シテ條約上ノ商人ヲ國際商人ニ限定セントスル法律第二六六號（下院法案第八七六六號）（附屬書第三百三十九號並第四百十號）紐育州選出民主黨下院議員「ディクスタイン」カ一九三二年二月二日附ヲ以テ下院ニ提出セル外國人ノ非移民身分ニ關スル一九二四年移民法第三條（六）ヲ修正セントスル下院法案第八七六六號ハ六月十八日下院ヲ通過シタルカ上院ニ於テ「ペンシルヴァニア」州選出共和黨上院議員「リード」ヨリ修正案出テタルモ七月一日附ヲ以テ下院ハ右「リード」修正ニ同意シタルヲ以テ直ニ大統領

領ノ手許ニ送付セラレ七月六日其ノ裁可ヲ得タリ

元來一九二四年移民法第三條（六）ノ

「現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ハ移民ト看做サスト規定シテ右外國人トハ單ニ國際貿易ニノミ從事スル者ノミヲ指サヤ又ハ米國內ニ於テ商行爲ヲ行フ者ヲモ含ムヤニ付解釋區々タリシヲ以テ今回ノ修正案ニ依リ左ノ通り明瞭ニ外國人ノ身分ヲ規定セントスルモノナリ（本件詳細ハ別項「條約上ノ商人並ニ其妻ノ入國問題」參照）

「現行ノ通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ合衆國ト本人カ國籍ヲ保有スル國トノ間ニ於ケル商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人並ニ其ノ同伴若ハ呼寄せタル妻及二十一歳未滿ノ未婚ノ子女」ハ移民ト看做サレヌ

尙其ノ後右法律第二六六號ノ制定ニ伴ヒ移民局ヨリ勞働省令第一九四號ヲ發シ右身分ニ關スル移民規則ノ修正ヲ行ヘリ（附屬書第四百一十一號）

勞働省令第一九四號

合衆國上下兩院ハ一九二四年移民法第三條（六）ヲ左ノ如ク修正ス

「現行ノ通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ合衆國ト本人カ國籍ヲ保有スル國トノ間ニ於ケル商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人竝ニ其ノ同伴若ハ呼寄せタル妻及二十一歳未滿ノ未婚ノ子女」

右修正ニ基キ移民規則第三條五項 (三) ハ左ノ如ク之ヲ修正ス

(三) 一九二四年移民法第三條 (六) 修正規定ニヨル非移民トシテ現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ合衆國ト本人カ國籍ヲ保有スル國トノ間ニ於ケル商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル者タルコトニ關シ移民検査官ニ於テ何等疑ノ餘地ヲ認メス且其他ノ點ニ付入國許可差支ナシト認ムル時ハ其合衆國滯在中非移民トシテノ身分ヲ維持シ若シ右身分ヲ維持セサルニ至リタル時若ハ維持スルコトヲ拒否スルニ至リタル時ハ自發的ニ合衆國ヨリ退去スヘシトノ條件ノ下ニ右外國人ノ入國ヲ許可スルモノトス

尙右外國人ニ同伴シ若ハ其ノ呼寄せタル適法ナル妻及二十一歳未滿ノ未婚ノ子女ハ其他ノ點ニ付入國許可差支ナシト認ムル時ハ右ト同一條件ノ下ニ入國ヲ許可セララルモノトス但シ移民検査官ニ於テ右外國人カ移民法第三條 (六) ニ該當スル非移民タルコトニ付疑ヲ有スル場合ハ之ヲ特別調査委員會ノ審査ニ附シタル上同委員會ハ其他ノ點ニ付テモ入國許可差支

ナシト認ムル時ハ右ト同一條件ノ下ニ其ノ入國ヲ許可スヘキモ其ノ際右條件ノ忠實ナル履行ヲ確保スル爲メ五百弗ノ保證金供託ヲ要求スルコトアルヘシ

右保證金カ移民法第三條 (六) 規定ニ基キ入國ヲ許可セラレタル夫又ハ父ヨリ徵收セラルル場合ハ別ニ右外國人ノ妻又ハ未成年者タル子女ヨリ其夫又ハ父カ入國ヲ許可セラレタル身分ヲ維持セサルニ至リタル時又殊ニ妻ノ場合ニ於テハ其婚姻關係ノ終了シタル時公共ノ負擔ヲ生セシムルコトナク合衆國ヨリ退去スヘキコトヲ確保センカ爲保證金ノ供託ヲ要求スルコトアルヘシ

尙常設特別委員會ノ設置ナキ入國港ニ於テハ當該港ノ移民官憲カ右保證金徵收ノ權限ヲ有スルモノトス

一九二四年移民法第二十八條中ノ各語ノ意義ハ其儘本規則ニ準用セララルモノトス

移民規則第三條五項 (五) ハ之ヲ左ノ如ク修正ス

(五) 一九二四年移民法第三條 (六) 修正規定ニ基ク非移民ハ一九一七年移民法第三條契約移民勞働ニ關スル各規定ノ適用ヲ受ケサルモノトス

(2) 政府ノ官吏ノ從者及學生ニ對シ其ノ身分終了ト共ニ出國ヲ要求セントスル法律第二三四號

(下院法案第七七九三號)(附屬書第四百十二號)

右法律ノ原案ハ「オハイオ」州選出共和黨下院議員「ケーブル」ノ提出ニ係リ一九二四年移民法第十五條ヲ修正シ從者、使用人トシテ政府ノ官吏ニ對スル禮讓ノ下ニ入國ヲ許可セラレタル外國人ニ對シ解僱ト共ニ之ヲ自發的ニ出國セシメ又學生トシテ入國ヲ許可セラレタル外國人ニ對シ出國ヲ保證セシムル爲「ボンド」ヲ要求スルノ權利ヲ勞働省ニ賦與セムトスルモノニシテ五月十六日何等ノ討議ヲ用ヒスシテ下院ヲ通過六月二十七日同シク上院通過七月一日大統領ノ裁可ヲ得タリ

尙其後發布セラレタル移民規則ニ依レハ右從者タル身分ニ付移民官ニ於テ疑アリト認メタル場合ハ特別審査會ノ決定ヲ俟テ之カ入國ヲ許可スルコトアルヘク又同規則ニ依レハ第四條(e)ニヨル學生ハ左記ノ條件ヲ充スコト必要トセラレタリ

(イ) 學生ハ入國ニ際シ移民官必要ナリト認ムルトキハ入國ニ際シ出國ヲ保證スル爲五百弗ノ「ボンド」ノ供託ヲ要求セラルコトアルヘシ

(ロ) 學生ハ終始學生タルノ身分ヲ保持スルニ足ル充分ナル財政上ノ準備ヲ有シ又ハ充分之ヲ保證セラレ居ルコトヲ要ス

(ハ) 學生ハ一切營利ヲ目的トスル業務又ハ職業或ハ雇傭勞働ニ從事スルヲ得ス(既ニ合衆國ニ滯在中ノ學生ハ從來通室代食費ノ爲ノ勞働ニ從事スルコトヲ認メラレタリ但シ其際ニ於テモ賃銀ノ爲ノ勞働ハ依然禁セラル)

即チ外交官ノ從者ノ身分維持並ニ學生保證金供託ニ關スル新規則左ノ通(附屬書第四百十三號)

勞働省令第一九五號

第七十二回議會ニ提出セラレ一九三二年七月一日可決セラレタル特定外國人ニ對スル出國要求ニ關スル法律第二三四號ハ左ノ通規定ス

「一九二四年移民法第十五條ヲ左ノ通修正ス

第三條 (一) (政府ノ官吏並ニ其家族ヲ除ク) (二) (三) (四) (五) 若ハ (六) ニ依リテ移民階級ヨリ除外セラレ又ハ第四條(e) ニヨリテ非步合移民ナルコトヲ言明セラレタル外國人ノ合衆國入國ハ規則ニ規定セラルル期間ヲ超過セサルヘク且其期間滿了ノトキ若ハ入國ヲ許可セラレタル際ノ身分ヲ維持セサルニ至リタルトキハ合衆國ヨリ去ルヘキコトヲ確保スル爲規則ヲ以テ定メラルル條件(右條件ハ第三條(二)(三)(四)(六) 若ハ第四條(e) ニ掲ケラレタル階級

ニ付必要ナリト認メラルルトキハ規則ニヨリ定メラルル金額及條件ニ從ヒ充分ナル保證金ヲ供託スルコトヲ含ムモノトス）ニ依ルコトヲ要ス」

右移民法修正ニ依リ移民規則第三條H項ニ新ニ一項ヲ加ヘ又同第十條A項及D項ハ各修正ノ必要ヲ生セリ即チ移民規則第三條H項 (1) A (Paragraph 2 A, Subdivision H of Rule 3) ハ左ノ如クナルヘシ

(二) A 移民検査官ハ政府ノ官吏ノ從者、僕婢及雇人トシテ之ニ隨行シ若ハ之ニ扈從スル目的ヲ以テ先行又ハ後行シ非移民トシテ入國セントスル外國人カ其ノ身分ヲ具備セルコトニ付何等疑ノ餘地ヲ認メス且其他ノ點ニ付入國許可差支ナシト認ムル時ハ右外國人ニ對シ其合衆國滞在期間中入國ヲ許可セラレタル身分ヲ維持シ且右身分ヲ維持セサルニ至リタル時若ハ維持スルコトヲ拒否スルニ至リタル時ハ自發的ニ合衆國ヨリ退去スヘシトノ條件ノ下ニ入國ヲ許可スルモノトス

若シ移民検査官ニ於テ疑ノ餘地アリト認メタル時ハ右外國人ヲ特別調査委員會ノ審査ニ附シタル上同委員會ハ其他ノ點ニ付テモ入國許可差支ナシト認ムル時ハ右ト同一條件ノ下ニ右外國人ノ入國ヲ許可スルモノトス

移民規則第十條A項 (一) (學生ニ關スル規定) ハ左ノ如ク之ヲ修正ス

(一) 一九二四年移民法第四條 (e) ノ善意ノ學生ナル語ノ意義ヲ左ノ如ク定義ス

(1) 少クトモ十五歳以上ノ外國人ニシテ合衆國領事ノ適法ニ發給セル其學生トシテノ身分ヲ明示スル有效ナル非歩合移民査證ヲ提示シ (2) 本人自ラ指定セル勞働長官公認ノ學校、大學校、專門學校、宗教學校又ハ綜合大學ニ入學ノ資格ヲ有シ且右學校入學ニ關スル手續ヲ完備シ (3) 専ラ右學校ニ於テ所定ノ全課程ヲ履ム目的ヲ以テ一時的ニ合衆國ニ入國シ晝間學級ニ於テ其ノ全學業ヲ修得セントシ且 (4) 合衆國滞在期間中學生トシテノ身分ヲ維持スルニ足ル財政上ノ準備又ハ保證ヲ有シ (5) 右修業年限終了ト共ニ又ハ學生トシテノ身分ヲ維持セサルニ至リタル時ハ自發的ニ合衆國ヨリ去ラムトスル者之等外國人ハ旅券又ハ領事規則所定ノ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書ヲ提示シテ合衆國內ニ於ケル修業年限終了シタル時ハ本規則ニ從ヒ本國又ハ第三國ヘ歸還スルコトヲ實證セサルヘカラス

移民検査官ハ右外國人カ前記定義ニヨル善意ノ學生タルコトニ付何等疑ノ餘地ヲ認メス且其他ノ點ニ付入國許可差支ナシト認ムル時ハ右外國人ノ入國ヲ許可スルモノトス若シ

移民検査官ニ於テ疑ノ餘地アリト認メタル時ハ右外國人ヲ特別調査委員會ノ審査ニ附シタル上同委員會ハ其他ノ點ニ付テモ入國許可スルモ差支ナシト認ムル時ハ右外國人ノ入國ヲ許可シ得ルモノトス移民検査官ハ入國許可ニ先立チ自己ノ自由裁量ニ依リ入國許可ノ條件トシテ五百弗ノ保證金ヲ供託セシメ以テ右外國人カ其合衆國滞在期間中學生タルノ身分ヲ維持シ右身分ヲ維持セサルニ至リタル時ハ自發的ニ合衆國ヨリ退去セシムルコトヲ得ルモノトス但シ右入國許可カ最初ノ移民検査ニヨルト又ハ特別調査委員會ノ審査ニヨルトヲ問ハス且其ノ際ノ保證金供託ノ有無ニ拘ラス其滞在期間ハ右外國人ノ本國又ハ第三國ヘ歸還スルニ必要ナル旅券又ハ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書ノ有効期間満了前六十日迄トシ之以後ニ互ルコトヲ得サルモノトス而シテ右滞在期間ハ移民査證、旅券又ハ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書中ニ裏書セラルヘキモノトス右外國人入國ノ許可ヲ受ケタル時ハ當初許可セラレタル滞在期間満了前ニ左記(二)ノ規定ニ基キ滞在延期ヲ出願シ其ノ許可ヲ受クルコトナクシテ右期間經過後尙合衆國內ニ滞在スルハ移民法違反ナリトス尙許可セラレタル滞在期間並ニ旅券又ハ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書ニ關スル諸事項ハ第五一三號書式ニ則リ之ヲ記入スヘキモノトス

(二) 善意ノ學生カ (一)ノ規定ニヨリ其一時的滞在期間ノ延長ヲ爲サントスル時ハ當初許可セラレタル滞在期間満了前少クトモ六十日前ニ勞働長官宛左記諸事項ヲ具陳シ之カ出願ヲ爲スヘキモノトス

姓名、年齢、現住所、在學中ノ學校名、本國ニ於ケル住所、合衆國ニ到着シタル時日、場所及方法、合衆國內ニテ現在又ハ過去ニ於テ何等カノ營利的業務ニ従事シタルコトノ有無、若シ右事實アル時ハ其ノ従事セル業務ノ種類及收得セル賃銀額

右出願ニ當リテハ願書ト共ニ右延長申請期間以後更ニ六ヶ月間ニ對シテモ猶有效ナル本國又ハ第三國ヘ歸還スルニ必要ナル本人所持ノ旅券又ハ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書ヲ添付スヘキモノトス勞働長官ハ保證金供託ノ有無ニ拘ラス右外國人カ善意ノ學生ニシテ其ノ旅券又ハ領事規則所定ノ旅券ニ代ルヘキ旅行證明書カ前述ノ通延長申請期間以後更ニ六ヶ月間猶有效ナル時ハ右延期ヲ許可スルモノトス而シテ右滞在延長ノ出願ニ基キ採リタル手續ハ之ヲ右外國人ノ合衆國入國ノ許可ヲ受ケタル當該港ノ移民官憲ニ報告セラルルモノトス

移民規則第十條D項(一)(身分拋棄ニ關スル規定)ハ左ノ如ク之ヲ修正ス

(一) 一九二四年移民法第四條(e)規定ノ非歩合移民トシテ合衆國ニ入國許可セラレタル移

民學生ニシテ左ノ諸條項ノ一ニ該當スル時ハ其移民學生タルノ身分ヲ拋棄シタルモノト看做サレ勞働長官ノ令狀ニ依リ拘禁セラレ送還セラルルモノトス

- (イ) 入學ヲ許可セラレ又ハ適法ニ轉校ヲ許可セラレタル學校、大學校、專門學校、宗教學校及綜合大學又ハ公認學校等ヘノ出席ヲ規則的ニ爲サス又ハ之ヲ怠リ若ハ拒否シタル者
- (ロ) 右學校ヨリ放校處分ヲ受ケ學籍ヲ離脱シタル者
- (ハ) 營利的業務又ハ職業ニ従事シタル者
- (ニ) 雇傭勞働ニ従事シタル者
- (ホ) 本國又ハ第三國ヘノ自發的歸還ヲ認許スル旅券又ハ領事規則所定ノ旅行證明書ヲ所持セサル者
- (ヘ) 自發的ニ出發スヘキ時出發セス又ハ出發ヲ拒否スル者

尙移民局ヨリ移民學生收容ノ認可ヲ受クル各學校登録係ニ宛テ書翰ヲ發シ前記一九三二年七月一日附移民法ニ基キ今後移民官ニ於テ學生カ充分學生タルノ身分ヲ保持セサルモノト認ムル時ハ爾今五百弗ノ保證金ノ供託ヲ要求スルコトアルヘキ旨注意ヲ喚起シ且從來合衆國內ニ於テ移民學生 (immigrant students) カ如何ナル種類ノ職業ニ従事スルコトヲモ禁シタル一九三〇年一月一日附ノ移民規則並第一九五號一般訓令ノ各規定ニ關シ併セテ注意ヲ喚起スル所アリタリ (附屬書第四百十四號)

(註) 前記附屬書第四百十四號ハ在米大使ヨリノ報告ノ附屬書ヨリ收録セルモノナル處之等ハ移民規則ノ原文以外ニ其ノ前文トシテ在米大使館宛書翰ノ如キ形式ノ文言アリ

移民局發移民學生收容學校宛書翰左ノ通

最近非歩合移民學生ニ關スル移民法令中二三修正ヲ見タル處左記諸點ニ就キ特ニ御留意相成度

- (一) 一九二四年制定移民法第四條 (e) 修正規定ニ基キ學生タルノ身分ヲ保持シ且許可セラレタル滞在期間内ニ離米スルノ條件ノ下ニ將來北米合衆國ニ入國セント欲スル外國人ハ入國ノ際港務官憲ノ自由裁量ニ基キ五百弗ノ保證金ノ供託ヲ要求セラルルコトアルヘシ

- (二) 第四條 (e) ニ基ク學生トシテ北米合衆國ニ入國セントシ又ハ既ニ入國セル外國人ハ假令一時的ナリト雖モ就職スルノ特典ヲスラ認メラレサルモノナルヲ以テ之等學生ハ終始學生タルノ身分ヲ保持スルニ足り得ル充分ナル財政上ノ準備ヲ有シ又ハ充分之ヲ保證セラレ居ルコトヲ表示シ得ルモノタラサルヘカラス而シテ若シ學生ニシテ營利ヲ目的トスル業務又ハ職業或ハ雇傭勞働ニ従事スル時ハ其ノ學生タルノ身分ヲ喪失シタルモノト看

做サレ逮捕ノ上國外ニ追放セラルヘキモノトス尙在學中ノ非歩合移民學生ニ對シテハ如何ナル性質ノ雇傭關係ニモ立ツ能ハサル旨ヲ說示シ若シ學生中右關係ニ立ツモノ有ル時ハ當局ニ報告相成度(註)

- (三) 從來非歩合移民學生ハ其ノ學生タルノ身分ヲ充分保持スル限り合衆國滞在ヲ許容セラレタルモ今後移民法第四條(e)規定ニ基キ合衆國ニ入國許可セラルル學生ハ保證金ノ供託ノ有無ニ拘ラス其ノ滞在ニハ一定期間ヲ附セラレ右ハ各其ノ所持スル旅券又ハ旅券代用ノ旅行證明書有効期限終了前六十日以上ニ互ルヘカラサルモノトス故ニ移民學生ハ右滞在期間終了ト共ニ離米スルカ又ハ少クトモ右滞在期間終了ノ少クトモ六十日前ニ滞在期間延長方ヲ勞働長官ニ出願スヘキモノトス右ノ爲ノ出願用紙ハ常ニ各移民事務所又ハ移民局ニ備付アレハ右ハ容易ニ之ヲ入手スルコトヲ得ヘシ學生ニシテ當初ノ滞在期間ノ延期ヲ申請セントスルトキハ該願書ト共ニ右延期申請期間タル六ヶ月間ニ對シテモ猶有效ナル旅券又ハ海外ヘ歸國セントスル際使用スヘキ旅券代用ノ文書ヲ提出シ且右旅行ニ必要ナル書類ヲ該願書ニ添付スルニ際シテハ相當ノ注意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 既ニ入學ヲ許可セラレタル移民學生ハ學業終了後國外ヘ出發ノ許可ヲ受クルニ必要ナル

旅券又ハ旅券代用ノ文書ノ獲得又ハ有効期間ノ延長ヲナシ置クヘキ様示達相成度

- (四) 從來移民局規則ニヨレハ非歩合移民學生ハ近隣諸國ヲ訪問シタル後新規ニ入移民査證ヲ受クルコトナクシテ歸米シ得タリシ處右特典ハ加奈陀、「ニューファウンドランド」、墨西哥、玖瑪、「ベルムダ」及「バーマス」ヘノ訪問ニ關スル限り依然之ヲ認メラルヘキモ今後之等諸國ヘノ一時的訪問後歸米ノ出願ヲナス非歩合移民ハ前記(三)ノ規定ニ遵フコトヲ要ス但シ右(三)ニ於テ當初許可セラレタル滞在期間又ハ延期ヲ許可セラレタル滞在期間ノ終了前ニ海外ヘ歸國スルニ當リ使用スヘキ有效ナル旅券又ハ旅券代用ノ文書ヲ必要ト爲シタルモ右ハ自國ニ歸還スルニ當リ旅券ヲ必要トセサル或種ノ國々ノ非歩合移民學生カ前記諸國又ハ島嶼ヘノ一時的訪問後歸米セントスル場合ニハ之ヲ適用セス

- (五) 以上訓令ニ基キ各移民學生收容認可學校ハ移民學生ノ在學終了期並ニ學生中既ニ合衆國ヲ去リ又ハ近日中ニ去ラントスルノ計畫ヲ有スル者アル時ハ右出發期日、乗船名及發港名ヲ又未タ出發ノ計畫ヲ有セサル者アル時ハ其ノ所在ニ關スル情報ヲ速ニ移民局ニ通報相成度右報告ヲ速ニナスコトヲ怠リタル學校ハ法律ニ據リ其ノ移民學生收容ノ認可ヲ取消サルルコトアルヘシ通信取扱上ノ便ヲ慮リ各認可學校ハ全移民學生ニ關スル總括的

報告ヨリモ寧ろ各學生ニ關スル個別的報告ヲ提供スル様移民局ト協力セラレ度

(註) 其後前記(二)ハ修正セラレ既ニ合衆國滯在中ノ非歩合移民學生ニ對シ從來通り室代食費ノ爲ノ勞働ニ從事スルコト認メラレタルモ賃銀ノ爲ノ勞働ハ依然トシテ禁止セラレ居レリ

(3) 外國人器樂師ニ契約勞働規定ヲ適用セントスル法律第六一號(下院法案第八二三五號)

右法律ハ三月十七日大統領ノ裁可ヲ得タルカ右ニヨレハ一般外國人器樂師ハ一九一七年移民法第三條第五項ニ謂フ藝術家又ハ職業技藝師ト看做サレス從ツテ契約勞働規定ノ適用ヲ受ク但シ著名且優秀ナル技能ヲ有スル外國人器樂師又ハ著名ナル外國器樂團ノ一員タル場合ハ此ノ限ニアラサルモ其場合ニ於テモ其入國滯在期間、「ボンド」積立及演奏等ニ關シ各種ノ條件ヲ充スコトヲ必要トセリ(附屬書第四百十五號)

(4) 米國市民ノ夫ヲ非歩合移民トシテ入國ヲ許可セントスル法律第二七七號(下院法案第一〇六〇〇號)

七月十一日大統領ノ裁可ヲ得タル本法ハ米國ヘノ永住入國ニ對スル移民查證發給ニ關シ米國市民ノ夫ヲ米國市民ノ妻ト同等ノ地位ニ置カントスルモノナリ(附屬書第四百十六號)

一九二四年移民法第四條(a)ハ一九二八年六月一日前ノ婚姻ニ依ル米國市民ノ夫ヲ非歩合移

民トシテ入國ヲ許シ居ル處紐育州選出民主黨下院議員「ディックスタイン」ハ右法案ヲ提出シ右時期以後ノ婚姻ニ依ル米國市民ノ夫ヲモ非歩合移民トシテ入國ヲ許シ外國人トノ婚姻ニヨリ困難ニ遭遇シツツアル多數ノ米國市民タル女子ヲ救済セントシタルモノナリ但シ本法ハ一九二四年移民法第十三條(c)項トノ關係上歸化不能外國人タル本邦人ニハ關係ナキ次第ナリ

(5) 一九〇〇年以前布哇島ニ出生セル女子ニ歸化ヲ許サントスル法律第二四八號(下院法案第一〇八二九號)

七月二日大統領ノ裁可ヲ了シタル本法ハ布哇王國及一九〇〇年六月十四日迄存在シタル布哇共和國ニ於テ出生シタル婦人ニシテ婚姻ニ依リ米國國籍ヲ喪失シタルモノニ對シ其ノ夫カ歸化不能人種ニ屬スルト否トヲ問ハス米國國籍ノ再取得ヲ許サントスルモノナリ(附屬書第四百七十七號)

一九二二年九月法律及一九三一年三月修正法律ハ婚姻ニ依リ國籍ヲ喪失セル米國出生ノ婦人ニ其ノ夫ノ人種如何ヲ論セス米國國籍再取得ヲ許可スル旨規定セル處本規定ハ一九〇〇年六月十四日併合以前布哇ニ於テ出生シタル婦人ニハ適用セラレサリシヲ以テ今回ノ法律制定ヲ

見タル次第ナリ

- (6) 移民法中契約労働ニ關スル規定ノ勵行費ニ關スル法律第一一五號(下院法案第九五九八號)

五月二日大統領ノ裁可ヲ了シタル本法ハ一九一七年移民法第二十四條ヲ修正シ前記勵行費ヲ年額十萬弗ヨリ二十萬弗ニ増額セントスルモノナリ(附屬書第四百十八號)

- (7) 歸化ニ關スル法律第一四九號(下院法案第六四七七號)

五月二十五日大統領ノ裁可ヲ了シタル本法ハ世界大戰(一九一七年四月五日ヨリ一九一八年十一月十二日ニ至ル期間)ニ際シ米國軍隊ニ服役シ不名譽ノ廉ヲ以テ役務ヲ解除セラレタルモノニアラサル歸化可能外國人ニ大戰當時ト同一ノ條件ノ下ニ歸化ノ特權ヲ賦與セントスルモノナリ(附屬書第四百十九號)

- (8) 米領「バージン」諸島出生者ノ入國ニ關スル法律第一九八號(上院法案第四四二五號)

六月二十八日大統領ノ裁可ヲ了シタル本法ハ米領「バージン」諸島出生者ニシテ國外ニ居住セル者ニ對シ米國ニ入國セントスル際之ニ非歩合移民ノ資格ヲ賦與セントスルモノナリ(附屬書第五百十號)

(二) 其ノ他移民法及歸化法關係法案ニシテ本期議會ニ於テ議決ヲ見サリシモノノ中主ナルモノ左ノ通

- (1) 外國人船員追放ニ關スル法案(上院法案第七號及下院法案第一二一七三號)

「ユター」州選出民主黨上院議員「キング」ノ提出ニ係ル外國人船員追放ニ關スル法案(上院法案第七號)ニ關シテハ移民委員會公聽會ニ於テ國務省側ヨリノ強硬ナル反對ニ會シタルカ其ノ主ナル理由ハ本法ハ外國船舶乗組員ノ組成ニ干涉スルコトナリ從來ノ國際慣行ニ反スルモノニシテ國際關係上困難ヲ惹起スヘク且本案ニヨレハ英國船和蘭船ハ假令同國屬領地ノ人民ニテモ歸化不能外國人タルモノハ之ヲ船員トシテ米國港ニ入港セシムル能ハサルニ日本人ハ日本船舶ノ乗組員トシテ何等差支ナク入港シ得ル結果英國船和蘭船及支那人ヲ使用スル米國船ハ日本船トノ競争上極メテ不利ナリト云フニアリ(附屬書第五百一十一號)

尙「ウイスコンシン」州選出共和黨下院議員「シュナイダー」提出ノ外國人船員追放ニ關スル下院法案第一二一七三號ハ右「キング」法案ト全然同一内容ノモノナリ

- (2) 外國人共產黨員追放及排除ニ關スル法案(下院法案第一二〇四四號)

外國人共產黨員ノ追放及排除ヲ目的トスル法案ノ下院ニ提出セラレタルモノ五個ニ上リタル

モ「テキサス」州選出民主黨議員「ダイス」ノ提出ニ係ル下院法案第一二〇四四號モ其ノ一ニシテ一九一八年十月十六日附法律第一條(a)項ノ修正ヲ目的トスルモノナリ(附屬書第五百十二號)

(3) 米國市民ノ兩親ヲ非步合移民トシテ入國ヲ許サントスル法案(下院法案第八一七四號)

本案ハ「デックスタイン」ノ提出ニ係リ二十一歳以上ノ米國市民ノ兩親ニシテ六十歳以上ノ者ヲ步合移民ヨリ免除セントスルモノナリシ處下院ニ於テ修正ヲ加ヘラレ右條項ハ削除セラレ其ノ代リ米國市民ノ兩親ヲ年齢ニ制限ナク一九二四年移民法第六條下ノ優先條項中ニ置キ例外トシテ本法制定後十二箇月間ヲ限り移民步合數ノ盡キタル爲步合査證ヲ得ルコト能ハサリシ兩親ニ對シ非步合査證ヲ發給スル旨ヲ規定セリ(附屬書第五百十三號)

但シ右法案ハ同法第十三條(c)項トノ關係上假令成立シタリトスルモ歸化不能外國人タル本邦人ニハ適用ナキ次第ナリ

(4) 移民步合切下ニ關スル法案(下院法案第一〇六〇二號)

右法案ノ要旨ハ(イ)步合ヲ有スル歐洲諸國ヨリノ移民ハ現在步合數ノ一割ニ制限シ一國ノ最低步合數ヲ百名トス(ロ)步合制限外ノ西半球諸國ヨリノ移民(一九二四年移民法第四條(c))

ハ一九三〇年六月三十日ニ終ル年度中ニ發給セラレタル非步合査證數ノ一割ニ制限ス(ハ)國內ニ於テ必要トスル熟練職工等ニ付テハ勞働長官ノ許可ニヨリ非步合移民トシテ入國ヲ許可スト云フニアリ

尙右法案ト類似ノ法案ハ前議會以來幾多提出セラレタリ(附屬書第五百十四號)

(5) 移民法第十三條(c)項ヲ修正セントスル法案(下院法案第三〇四號、第二〇三號、第四六七五號及上院法案第二七六〇號)

右諸法案ハ適々成立セサリシカ之等ハ皆一九二四年移民法第十三條(c)項(歸化不能外國人ノ入國禁止條項)ヲ修正セムトスルモノニシテ本邦ニ取り重要ナル關係アルニ付左ニ其ノ概要ヲ記入スヘシ

(イ) 曩ニ一九二四年ノ移民法第十三條(c)項ニ對シ所謂「ビンガム」修正トシテ知ラルル一九三〇年六月十三日ノ修正法ニ依リテ一九二四年移民法成立(五月二十六日)以前ノ結婚ニ係ル米國市民ノ支那人妻ニ對シ入國ヲ認ムルコトトナリタルカ右布哇選出「ヒューストン」提出ニ係ル下院法案第三〇四號ハ一九二四年移民法第十三條(c)項ヨリ「ビンガム」修正ニヨリ加ヘラレタル支那人ノ語ヲ削除シ一九二四年五月二十六日以前ノ結婚ニ係ル米國市

民妻ニ對シテハ歸化不能外國人タリトモ一般ニ入國ヲ認メントスルモノナリ（附屬書第百五十五號）

(ロ) 下院法案第二〇三號ハ同シク「ヒューストン」ノ提出ニ係リ同シク第十三條(c)項ヲ修正シ米國市民ノ妻タルモノハ歸化不能外國人タリトモ結婚ノ時期ニ不拘凡テ入國ヲ認メ更ニ米國ニ居住スル米國市民タル子女ノ父母ニ對シ入國ヲ認メントスルモノナリ（附屬書第百五十六號）

(ハ) 下院法案第四六七五號ハ「ミズーリ」州選出「ダイヤー」ノ提出ニ係リ第十三條(c)項ヲ修正シ米國市民ノ妻ハ歸化不能外國人タリトモ一般ニ入國ヲ許可セントスルモノナリ（附屬書第百五十七號）

(ニ) 上院法案第二七六〇號ハ「ビングム」ノ提出ニ係リ内容ニ於テ「ヒューストン」提出ノ前記下院法案第三〇四號ト同一ナルモ「ビングム」自ラ前記一九二四年六月十三日ノ修正法ニ對シ更ニ修正ヲ加ヘントシタル點ニ於テ注目スヘキモノナリト認メラル（附屬書第百五十八號）

(6) 外國人ノ登録及身分證明書發給ニ關スル法案（下院法案第七四三六號）

本法案ハ米國內ニ居住スル外國人ハ總テ本法制定後三ヶ月以内ニ歸化局ニ又一時又ハ永久ノ目的ヲ以テ米國ニ入ラントスル外國人ハ總テ入國港ニ於テ身分證明書發給方ヲ請求スヘキコト及歸化可能外國人ニシテ年齢二十一歳ニ達シタル者ハ國籍取得出願直前五年間本法ニ依リ登録スヘキ旨ヲ規定セントスルモノナリ（附屬書第百五十九號）

(7) 國籍ノ喪失、歸化權ニ關スル規定ヲ綜合統一セントスル法案（下院法案第五六號）（附屬書第百六十號）

(8) 公共ノ負擔トナルヘキ外國人ノ入國許可ニ關スル法案（下院法案第七六一四號）
本法案ハ米國內ニ居住スル夫、妻、兩親、子女等ト同居ノ目的ヲ以テ入國許可ヲ請求スル外國人ニシテ其ノ米國內ニアル親戚カ當人ノ入國後五ヶ年以内ニ於テ公共ノ負擔トナラサルヘキコト（必要ノ場合ニハ一千弗ヲ超エサル「ボンド」ヲ積ムコト）ヲ保證スル場合ニハ公共ノ負擔トナル恐アルモノトハ思惟セラレサルヘキ旨ヲ規定セントスルモノナリ（附屬書第百六十一號）

第八、條約上ノ商人竝ニ其妻ノ入國問題

米國政府ハ一九二四年移民法第三條(六)ニ規定セル條約上ノ商人トハ國際商業ニ從事スル者ヲ意味スルモノトシ此範圍内ニ於テノミ商人ノ入國及其妻ノ同伴呼寄ヲ許可シ來リタル爲國內商業ニ從事スル在米邦人ハ條約上ノ商人トシテノ資格ヲ認メラレス其結果妻子ヲ呼寄スルコト能ハス甚タシク苦痛困難ヲ感シツツアリタルカ他面一九一一年締結ノ日米通商航海條約上ノ商業ノ範圍ニ關シテハ從來屢次ノ合衆國大審院又ハ加州大審院ノ判決ニ依リ其意義ハ廣義ニ解釋セラレ居ルニ依リ(一九二四年五月二十六日「シアトル」ニ於ケル外國人質屋營業問題ニ關スル所謂朝倉事件ニ對スル合衆國大審院判決、一九二五年二月二十七日「ホワイ・ポイント」溫泉宿問題ニ關スル所謂田上事件ニ對スル加州大審院判決及羅府ニ於ケル病院設立ニ關スル所謂田代事件ニ對スル一九二八年五月十日同大審院判決)在米邦人間ニ於テハ既ニ移民法通過直後商人ノ妻呼寄ニ關シ試訴ヲ提起セムトスル氣運アリシ處其後偶々一九二八年十二月七日羅府日米新聞支社記者熊野御堂好文ノ妻入國拒絕事件發生シ訴訟提起セラレ其結果一九三〇年四月七日桑港合衆國巡迴控訴院ハ日米條約第一條ノ商業ノ意義ヲ廣義ニ解釋シ同人妻ヲ現行移民法第三條(六)ニヨル條約上ノ商人ノ妻トシテ入國セシムヘキ旨判決セリ茲ニ於テ在米邦人中米國司法部ノ解釋ト同様ノ解釋ヲ行政部ニ於テ採用セシメ今後國際商人タルト國內商人タルトヲ問ハス一律ニ第三條(六)ノ「條約上ノ

商人トシテ入國シ得ヘキコトト爲シタキ旨希望ヲ開陳スルモノアリ依テ在米帝國大使館ト國務省トノ間ニ於テ一九三一年一月二十九日以來本件ニ關シ折衝ヲ重ネ來ツツアリシ折柄一九三一—三二年第七十二議會ニ於テ一九二四年移民法第三條(六)修正セラレ其結果反テ從前ヨリノ米國側見解ヲ法律化シ今後ハ第三條(六)ノ商人ヲ米國ト其商人ノ國籍ヲ有スル國トノ貿易ニ從事スル者ニ限ルコトトナレリ本問題ハ複雜ニシテ一九二四年移民法制定當時ニ遡リ其沿革ヲ知ルコト極メテ肝要ナリト認メラルルニ付左ニ其概要ヲ記述スヘシ

二、本問題ノ沿革

(一) 一九二三年十二月五日下午院移民委員長「アルバート・ジョンソン」ハ下院ニ一移民法案(現行法ノ濫觴ヲナシタルモノ)ヲ提出シタリ

右移民法案中ニハ本邦人渡米ニ重大ナル關係ヲ有スル條項數多包含セラレタルヲ以テ右法案ハ提出後又其制定後日米政府間ニ右ニ關シ種々ノ交渉ヲ開カシムル機縁ヲ作レリ

即チ(イ)第一ニ移民法案第十二條(b)歸化不能外國人ニ關スル規定(現行法第十三條(c)ニ該當ス)ハ一九一一年日米通商航海條約ニ違反セル差別的條項ナリトスル一九二四年一月十五日ノ在米埴原大使ノ抗議(ロ)二月八日國務長官「ヒューズ」カ移民法案ニ關シ「ジョンソン」ニ與ヘタ

ル書翰ニ於テ表明セラレタル米國政府側ノ日米通商條約第一條第一項ノ解釋ニ關スル五月一日在米大使ノ國務長官ニ對スル申入(ハ)移民法成立後五月三十一日新移民法第十三條(c)(法案ニテハ第十二條(b))ノ規定ト日米通商條約ノ規定トノ牴觸及其ノ牴觸ノ範圍ニ關スル專門的法理問題ノ提起ヲ他日ノ機會ニ留保スルト共ニ新立法ハ右條約締結ノ根底タル精神並經緯ヲ全然無視スルモノナル旨ノ帝國政府ノ抗議ノ提出(ニ)第三條(六)ニヨル商人ニ對スル契約勞働條項(一九一七年移民法第三條)適用ト其廢止(ホ)第三條(六)商人ノ妻ノ入國ヲ第三條(ニ)(一時的渡米者規定)ニヨリタルヲ第三條(六)ニヨルコトニ改正セルコト(ヘ)殊ニ第三條(六)商人ノ範圍ヲ米國側ノ解スル如ク國際商人ニ限ルハ日米通商條約第一條第一項ノ解釋上正當ナリヤ否ヤノ問題等ニ關シ日米間ニ甚タ複雑ナル問題ヲ生シタリ

(二) 即チ一九二三年十二月五日「ジョンソン」下院ニ移民法案ヲ提出スルヤ帝國政府ハ翌一九二四年一月十五日之ニ對シ抗議書ヲ米國政府ニ提出シ同法案第十二條(b)(歸化不能外國人入國禁止ニ關スル規定)ハ日米通商條約違反ナルコトヲ指摘シタリ

一月二十八日ニ至リ「ジョンソン」ハ國務長官「ヒューズ」ニ對シ其提出ニ係ル移民法案ニ關スル國務省側ノ意見ヲ求メタル處二月八日「ヒューズ」ハ右「ジョンソン」原案第三條(二)ニ

「一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ合衆國ニ渡來スル者」トアルハ短期間ノ入國ヲ目的トスル者ノミヲ意味スヘク通商條約ニヨリ入國ノ權利アル商人ヲ包含セス其結果同條項ハ第十二條(b)ト相俟チ日本商人ノ入國ヲ全然禁止スルコトナルヘク日米通商條約ニ違反ストナシ第三條ニヨリ非移民トシテ入國スヘキ者ノ中ニ通商條約ノ規定ニヨリ合衆國ニ入國シ得ル外國人ヲ加フヘキ旨ノ一項ヲ附加センコトヲ德意セリ其結果第三條(六)トシテ「現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ハ非移民トシテ渡來シ得ル旨ノ規定挿入セラレタリ

右回答ニヨルモ明カナル如ク米國政府ハ一九一一年日米通商航海條約第一條第一項(註)ハ商人ノ入國ノミニ關スル規定ナリト解スルカ如ク觀察セラレタルニヨリ五月一日在米埴原大使國務長官ニ面會ノ際帝國政府ハ右第一條ハ單ニ商人ノミナラス勞働者ヲモ包含スル一切ノ締約國民ノ往來居住自由ノ原則ヲ定メタルモノト解釋シ居ル旨ヲ陳述セシメタリ

右抗議ニ對シ「ヒューズ」ハ凡ソ一國民ノ構成分子ヲ組成スヘキ外國移民ニ付制限ヲ設クルハ國家固有ノ主權ニ屬シ條約上明確ナル規定ナキ限り之ヲ制限シタルモノト解スヘカラスト述ヘ同長官カ排日條項ニ反對スルハ全ク政策的ノ見地ヨリスルモノナル旨ヲ述ヘ條約ノ解釋ニ關シ

論議ヲ發生セサルコトヲ深ク希望スル旨述ヘタルヲ以テ在米大使モ之以上本件ニ深入スルヲ避ケタリ

尙「ジョンソン」ハ七月十七日桑港日本人會瀧本宛書翰ニ於テ下院委員會ニ於テ本問題ヲ審議ノ結果第三條(六)ノ規定ヲ挿入セルハ第三條(二)ノ一時的用務又ハ觀光ノ爲ニ來ルモノ以外ノ國際商人ヲ入國セシムル目的ニ出テタルモノナル旨ヲ述ヘタリ

(註) 一九一二年日米通商航海條約第一條第一項

兩締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ到リ旅行シ又ハ居住シ卸賣又ハ小賣商業ニ從事シ家屋、製造所、倉庫及店舗ヲ所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ自ラ選擇セル代理人ヲ雇使シ住居及商業ノ目的ノ爲土地ヲ賃借シ其他一般商業ニ附帶シ又ハ必要ナル行爲ヲ爲スコトニ付其ノ國ノ法令ニ遵由スルニ於テハ内國臣民又ハ人民ト同一條件ニ依リ之カ自由ヲ享有スヘシ

右原文

The subjects or citizens of each of the High Contracting Parties shall have liberty to enter, travel and reside in the territories of the other to carry on trade, wholesale and retail, to own or lease and occupy houses, manufactories, warehouses and shops, to employ agents of their choice, to lease land for residential and commercial purposes, and generally to do anything incident to or necessary for trade upon the same terms as native subjects or citizens, submitting themselves to the laws and regulation there established.

(三) 其後五月二十六日ニ至リ大統領ハ上下兩院ヲ通過セル移民法ヲ裁可シ一九二四年移民法成立スルニ至レルカ五月三十一日帝國政府ハ在米大使ヲシテ米國政府ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ申入レシメ新移民法第十三條(c)ノ規定ト一九一一年日米通商條約ノ規定トノ牴觸及其牴觸ノ範圍ニ關スル専門的法理問題ノ提起ヲ他日ニ留保スルト共ニ新立法カ右條約締結ノ根底タル精神竝經緯ヲ全然無視セルモノナルコトヲ指摘セリ

之ニ對シ米國政府ハ六月十六日回答ヲ送付シ越セルカ帝國政府ハ右米國政府ノ回答ニ對シ満足スルモノニ非サリシモ諸般ノ情勢上當時其儘移民法問題ニ關シ論議ヲ重ヌルモ徒ニ兩國ノ輿論ヲ激發シ事態ヲ紛糾セシムルノ結果ヲ招來スルヲ慮リ右ニ對シテハ何等ノ處置ヲ取ラサルコトニ決セルモ其後機會アル毎ニ例之外務大臣ノ議會ニ於ケル外交方針ニ關スル演說等ニ於テ本移民問題ハ未解決ノ懸案ナル旨ヲ表明シ來レリ

(四) 以上ノ如ク米國政府ハ日米通商條約第一條第一項ヲ極メテ狹義ニ解釋スルノミナラス同條項ニ規定スル「トレード」ナル文字モ移民法第三條(六)ニ關スル限り極メテ狹義ニ解釋シ之ヲ國際商業ニ限ル旨ノ解釋ヲ下シ勞働省ハ曩ニ六月六日發布セル移民法施行細則(General Order No. 30)ノ追加規定トシテ六月十四日左記其補則(Supplement to G.O. No. 30)ヲ發シ施行細則

中商人ノ範圍ニ付狹義ナル定義ヲ與ヘタリ

Aliens seeking entry as non-immigrants under Section 3 (6), solely to carry on trade under and in pursuance of a present existing treaty of commerce and navigation must show that they are coming in the course of a business which involves, solely or principally, trade or commerce between the United States and the country from which they come.

- (五) 其後新移民法實施ト共ニ實際問題頻發シ同法ノ解釋竝適用問題タル(イ) 第三條(六)ノ「トレード」ノ意義乃至範圍ノ問題ニ關シ疑義ヲ生シタルヲ以テ七月初在米大使館員ヲシテ國務省極東部長ニ訊問セシメタル處同官一應ノ意見トシテ第三條(六)ハ苟モ米國ト外國トノ貿易ニ關係アル商業ニ從事スルモノナル限リ資本ノ大小、地位ノ高下ハ之ヲ問ハス假令大規模ノ商業ヲ營ムモノニテモ國內商業ニ從事スルモノヲ包含セサル旨竝ニ新聞ノ特派員ハ涉外商業ノ範圍ニ屬スルモノト認ムル旨述ヘタリ

- (六) スクテ米國政府ハ飽ク迄「トレード」ヲ國際商業ニ限ルノミナラス更ニ實際ノ取扱ニ於テハ一九一七年移民法第三條契約勞動條項ヲ楯ニトリテ商人ヲ契約勞動者扱トシ入國前一々勞動省ノ許可ヲ經ルコトヲ要求スル等不便少カラス且國際商人ト雖モ其ノ妻子ノ入國ニ關シ何等法文上明示スル所ナカリシ處六月二十日ニ至リ國務省ハ國際商人ノ妻ハ一先第三條(二)ノ一時的

入國者トシテ其入國ヲ認ムルコトトシタリ其後十月五日ニ至リ更ニ移民法施行細則追加規定(Sixth Supplement to G.O. No. 30)ヲ以テ妻ハ右短期滞在期間ヲ更新延長シ得ル旨定メタリ

- (七) 一九二四年七月十一日偶々米國在住ノ夫タル支那國內商人ノ許ニ來レル支那人妻「チエン・サム・シー」(Mrs. Cheung Sum Silee)及其子カ移民法第十三條(c)ヲ理由トシテ入國ヲ拒絕セラレタル事件起リ結局一九二五年五月二十五日米國大審院ハ一八八〇年米支條約第二條ニ基ク支那商人ノ既得權(註)ヲ確認スルト共ニ新移民法第三條(六)該當者ノ有スル條約上ノ權利ハ其妻子ニモ及フトノ解釋ヲ下シタリ

(註) 一八八〇年米支條約第二條ハ支那商人(國內的タルト國際的タルトヲ問ハス)ノ入國自由ヲ規定シ一九〇〇年二月二十六日支那國內商人ノ妻「ゲー・リム」(Mrs. Gue Lim)入國ニ關スル大審院判決ハ右規定ハ妻子ニモ及フ旨ノ解釋ヲ下シタリ

即チ右判決ニヨリ支那商人(國內的タルト國際的タルトヲ問ハス)ハ一九二四年移民法制定後モ從前通米支條約ニヨリ自由ニ出入シ且妻子ヲ同伴又ハ呼寄せ得ルコトナレリ

- (八) 右支那商人妻子入國許可ノ判決ノ結果移民法第三條(六)該當者タル日本商人モ(國內國際ノ區別ナク)條約上ノ權利トシテ從來一時的入國者タル資格ニ於テ入國シ居リタル其妻子ヲ呼寄又ハ同伴シ得ヘキヤ否ヤニ付疑問アリシ處一九二五年五月十二日在本邦米國大使ハ幣原大臣ニ

對シ覺書ヲ以テ在米本邦商社ノ支店長及一般店員等ハ契約労働者トシテノ取扱ヲ受ケサルコトトナレル旨申越シ七月一日移民規則第三條 (Rule 3, Subd. H.) ヲ以テ更ニ之等ノ妻子ノ入國モ第三條 (六) ニヨル旨ヲ認メタリ然レトモ米國政府ハ依然トシテ第三條 (六) ノ商人ハ國際商人ニ限ルトノ解釋ヲ固持シ米支條約上ノ既得權トシテ支那商人ニ對シテハ國際的ト國內的トヲ區別セス來往又ハ妻子ノ同伴及呼寄ヲ爲シ得ルニ比シ差別的ナルヲ免レサリシ處一九二六年十月一日附支那人入國ニ關スル移民規則第二條第一項 (二) ニヨリ支那商人ト雖モ一九二四年移民法第三條 (六) ニヨリ新ニ米國ニ入國セントスル支那商人ハ國際商人ニ限ラレ (此點日本商人ト同様トナリ) 前記米支條約ニ基ク既得權ニヨリ國內的及國際的タルトヲ問ハス入國シ得ル支那商人ハ移民法制定以前ヨリ米國ニ居住スルモノニ限ラルコトナレリ

- (九) 一九二六年五月二十七日前年七月一日ノ移民規則第三條 (Rule 3, Subd. H.) ニ對シ新規則 (General Order No. 68) ヲ以テ改正ヲ加ヘタリ即チ前年七月一日ノ規則ニヨレハ第三條 (六) ニヨリ非移民トシテ入國ヲ許サルヘキハ現行通商航海條約ニ準據シ商業ヲ營ム者タルヘキヲ規定スルモノニシテ「現行條約」ノ何タルヤハ明ニナシ居ラサリシ處今回ノ改正ニヨリ之ヲ一九二四年五月二十六日ニ現存シタル通商條約ト規定シテ右ノ點ヲ明確ニセリ

- (十) 要之 (イ) 移民法制定直前直後ニ於テハ移民法ト日米通商條約ノ牴觸乃至米國政府ノ通商條約ノ適用範圍 (商人ノ外労働者ヲモ含ムヤ否ヤノ問題) ノ解釋カ問題トナリ (ロ) 中途ニ於テハ移民法ノ實際ノ適用上疑義アル諸點ノ調整ニ力ヲ盡シ (ハ) 最近ハ其疑義ノ中第三條 (六) ノ條約上ノ商業ノ範圍カ問題ノ中心トナリタル次第ナリ

但シ「第三條 (六) ノ「トレード」ノ意義ノ解釋ハ必スシモ國際商人ニ限ラス國內商業ニ從事スルモノモ其中ニ包含スヘキモノナリ」トスル我方從來ノ見解未タ正式ニ文書ヲ以テ米國政府ニ通告シタル記錄ナク唯僅ニ非公式ニ一九二四年十月二日在米吉田代理大使ト國務省極東部長代理トノ間ニ本件カ話題トナリタルコトアルニ過キス其際モ「ロ」ハ繰返シ米國側ハ「トレード」ヲ狹義ニ解釋スル旨主張セリ

三、熊野御堂事件

(一) 試訴ノ提起

敍上ノ如ク米國政府ハ一九二四年移民法第三條 (c) ニ規定セル條約上ノ商人トハ國際商業ニ從事スル者ヲ意味スルモノトシ此範圍内ニ於テノミ商人ノ入國及其妻ノ同伴呼寄ヲ許可シ來リタル爲國內商業ニ從事スル在米邦人ハ條約上ノ商人トシテノ資格ヲ認メラレス其結果妻子ヲ呼寄

スルコト能ハス在米邦人中ニハ爲ニ甚タシク苦痛困難ヲ感シツツアルモノアリ在米邦人間ニ於テハ既ニ移民法通過直後ヨリ商人ノ妻呼寄ニ關シ試訴ヲ提起セムトスル氣運アリ他面一九一一年締結ノ日米通商航海條約上ノ商業ノ範圍ニ關シテハ從來屢次ノ米國裁判所ノ判決ニヨリ其ノ意義ハ廣義ニ解釋セラレ居リ即チ合衆國大審院ノ一九二四年五月二十六日朝倉事件（「シアトル」ニ於ケル外國人質屋營業許可問題）加州大審院ノ一九二五年二月二十七日田上事件（「ホワイト・ポイント」溫泉宿問題）竝ニ一九二八年五月十日田代事件（羅府ニ於ケル病院設立ノ爲ノ借地問題）等ニ關スル判決ハ明カニ日米條約第一條ニ所謂「商業」ナル語ヲ廣義ニ解釋シタルニ依リ右試訴實行ノ念ヲ愈々堅メ桑港日本人會ノ如キモ本件試訴ニ付辯護士ノ意見ヲ徵シ之カ實行方ヲ慎重攻究スルニ至レリ偶々羅府日米新聞支社記者熊野御堂好文（曩ニ米國政府カ國際商人ノ「カテゴリー」中ニ入レタル新聞特派員ノ身分ヲ有セス單ナル地方的新聞ノ記者）カ一九二八年十二月七月妻「シヅ」ヲ同伴再渡米シタルニ對シ同地移民當局ハ同人妻ハ條約上ノ商人ノ妻ニアラストノ理由ノ下ニ入國ヲ拒否シタルヲ以テ桑港日會ハ此際本件ヲ利用シテ豫テ計畫中ナリシ前記試訴ヲ實行スルノ適策ナルヲ認メ折柄會合中ナリシ在米日會代表者會議ニ提出スル處アリタルモ未タ具體化スルニ至ラサリシカ一方入國ヲ拒絶セラレタル熊野御堂「シ

ヅ」ハ勞働長官ニ對シ入國許可方ヲ請願シタルモ之亦同人ノ夫ハ移民法第三條（六）又ハ日米通商條約第一條ニ照スモ條約上ノ商人タル資格ナシトノ理由ニ依リ却下セラレタルヲ以テ同人ハ右勞働省ノ解釋ヲ不當トシ日米新聞社長ノ援助ヲ得テ一九二九年三月一日桑港合衆國地方裁判所ニ人身保護律ニ基ク請願書ヲ提出シ之ニ對シ右裁判所ハ漸ク八月二十一日ニ至リ口頭ヲ以テ且何等ノ理由ヲ附セスシテ之ヲ拒否シタリ依テ同人ハ直ニ本件ヲ巡回控訴院ニ控訴シタリ（附屬書第百六十二號）

桑港日本人會ハ本件試訴ヲ以テ商人妻子呼寄試訴ノ適例ト認メ第二審以後ハ之ヲ日米社ヨリ讓受ケ在留邦人全般ニ關係アル事件トシテ日本人會側主宰ノ下ニ試訴ヲ決行センコトヲ計リタルカ其後日米社長ハ本件第一審カ同人ノ負擔ニ於テ提起セラレタルニ拘ラス第二審以後ヲ桑港日會ニ擔當セシムルコトハ内外人ノ誤解ヲ招キ易キノミナラス敗訴ノ場合其責任ノ歸着ニ付免角ノ物議ヲ醸ス虞アルコト又本件ハ桑港日會側ノ計畫ニ係ル國內商人妻子呼寄試訴ノ事例トシテ必スシモ適當ナリト言難キ節アリ第二審以後ヲ桑港日會ニテ主宰スルニ於テハ萬一敗訴ノ場合ニハ後日右妻子呼寄試訴ニ最適好ノ事件生シタル場合日本人會ハ再度贖金ヲ募リテ試訴運動ヲナスコト困難ナルヘキコト等ノ理由ニ依リ本件試訴ハ同社ニ於テ之ヲ自ラ主宰シ一面桑港日

會其他在留邦人ヨリ後援ヲ受クルコトシタリ之ト同時ニ桑港日會ハ右日米社長ノ態度ヲ諒トシ極力之ヲ後援スルコトトシ之カ實行方法等ヲ決定シ又擔當辯護士「エリオット」及「カルデシ」兩氏ヲ聘シ事件ノ内容ヲ一般邦人ニ知ラシムル爲講演會ヲ開催スルコト等ヲ決議セリ

(二) 本件試訴ニ於ケル原被兩告ノ主張要領

(イ) 熊野御堂側ノ主張

熊野御堂ハ日米新聞ノ記者ニシテ該新聞ハ米國ニ於テ印刷シ日本人ニ興味アル米國ノ「ニュース」ヲ掲載シ日本ニ販賣ス從テ同人ハ現行日米通商條約ノ解釋上同條約第一條ノ商人ニ該當スル者ナルヲ以テ其妻ハ商人ノ妻トシテ米國ニ入國ヲ許可セラルヘキ權利ヲ有ス(熊野御堂カ合衆國地方裁判所ニ提出セル訴狀ハ附屬書第百六十二號ト内容殆ト同一ナリ)

本件ハ條約ノ解釋カ根本タル事件ナルヲ以テ純然タル條約問題ナリト思考ス而テ日米通商條約第一條ノ解釋ニ關シテハ朝倉事件ニ對スル一九二四年合衆國大審院ノ判決、田上事件ニ關スル一九二五年加州大審院ノ判決、田代事件ニ對スル一九二八年加州大審院ノ判決等アリ之等何レノ判決ニ見ルモ條約ノ保障スル商業ニ關シ國內商業ト國際商業トノ間ニ何等ノ區別ヲ設ケ居ラス此點ハ一八八〇年ノ米支條約第二條及一八九四年ノ米支條約第三條ニ關聯スル支

那人入國ニ關スル諸判決例ニ見ルモ同様ナリ而モ日米條約第一條ト此等米支條約ノ商人ニ關スル條文ト比較シ何レカ其意味強キカハ自明ト云フヘキナリ故ニ若シ日米條約ヲ正解スルニ於テハ熊野御堂ノ妻ハ國際商人ノ妻タルト國內商人ノ妻タルトニ拘ラス入國ヲ許可セラルヘキモノニシテ新聞事業カ國內のモノタリト否トハ何等關係ナシト云ハサルヘカラス然ルニ同人カ勞働省ノ條令ニ基キ入國ヲ拒絕セラレタルハ同條令カ日米條約ノ解釋ヲ誤リタルモノト云フヘク從テ同條令ハ法廷ニ於テ廢棄セラルヘキモノナリ政府ノ條令カ條約ノ正解釋ニ依リ廢棄セラレタル實例トシテハ支那商人ノ妻 Gue Lim ノ入國ニ關スル一九〇〇年合衆國大審院判決、加奈陀勞働者ノ入國ニ關スル一九二八年ノ巡回控訴院ノ判決等アリ

(ロ) 右ニ對スル政府側主張

原告側ハ本件ヲ條約上ノ事件ナリト主張スルモ之ニ同意スルヲ得ス條約及法律ノ效力ニ關スル一般原則ハ若シ兩者ニシテ抵觸スル場合ハ後ニ成立シタルモノヲ以テ有效トナスモノニシテ此點ハ彼ノ名大審院判事 John Marshall 氏カ Foster v. Neilson 事件、Cherokee Tobacco 事件、Hijo v. the United States 事件等ニ於テ明ニ述ヘ居リ其他ニモ同様ノ判決アリ從テ本件ハ一九一一年ノ日米條約ニ關スル條約問題ニアラスシテ一九二四年移民法ノ適用問題トナ

ル次第ナリ

右移民法中本件ニ直接關係アル條項ハ其第三條(六)及第十三條ナルカ同法第二十四條ハ「移民局長官ハ勞働長官ノ認可ヲ經テ本法ノ規定ヲ施行スルニ必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得但シ右細則ハ領事館ニ依ル本法ノ施行ニ關係アル限り勞働長官ノ勸奨ニ依リ國務長官之ヲ定ムルモノトス」ト規定シ之ニ基キ勞働長官ハ一八二五年一月三日附一般訓令第三十號ヲ又國務長官ハ一九二五年九月三十日附省令第五十八號及第五十九號ヲ發布シ居レリ而テ省令カ法律ノ有スル效力ヲ有スルコトハ合衆國大審院カ *Fok Yung v. United States* 事件、*Chun Shee v. White* 事件等ニ於テ表明シ居ル處ナルヲ以テ結局本件ニ適用セラルヘキモノハ前記移民法第三條(六)及第十三條竝ニ之ニ關スル右省令ナリ

從テ本件審理事項ハ要スルニ右移民法及省令ノ解釋上熊野御堂カ移民法第十三條ノ除外條項(第三條(六)ニ該當スル者即チ商業ニ從事スル爲ニノミ渡來スル者)ニ該當スルヤ否ヤノ問題ニ歸着スルモノナルカ此點ニ付前記省令ノ規定及諸判決ニ於ケル對外商業ニ關スル説明等ヲ見レハ同人ハ何等商業ニ從事スルモノト云フヲ得サルノミナラス假ニ米國內ノ新聞ノ記者ハ商業ニ從事スルモノナリトシ尙本件邦字新聞ハ *incidentally* ニ其新聞ヲ故國ニ送付スルモ

ノトスルモ之ヲ以テ *solely* ニ商業ニ從事スルモノナリト云フヲ得ス仍テ同人ハ右除外條項ニ該當セサルモノナリ

要スルニ本件ハ條約ノ解釋問題ニアラス移民法等ノ適用問題ニシテ其適用ノ結果ハ熊野御堂ハ只單ニ商業ニ從事スル者ニモ又何等カノ意味ニ於テ商業ニ從事スルモノニモアラス從テ其妻ハ商人ノ妻トシテ入國ノ資格ナキモノナリ(附屬書第百六十三號)

(ハ) 右政府側主張ニ對スル原告側辯駁

原告側ハ政府側ノ指摘セル條約及法律ノ效力ニ關スル一般原則竝ニ該原則ヲ支持スル爲引用セラレタル諸判決例ニ關シ論爭スル要ナシ即チ本件ニ於テハ日米條約ト移民法トノ間ニハ何等ノ牴觸ナク條約ハ移民法ト結合シテ其一部ヲナスモノニシテ原告側ノ問題トスルハ條約ト移民法ノ關係ニアラスシテ條約及移民法ト勞働省令トノ關係ナリ

法律ニ基キ發布セラレタル省令カ法律ノ有スル效力ヲ有スルコトハ別ニ異議ナキモ其場合ハ省令ハ法律ノ趣旨ニ合致スルモノタルヲ要シ該法律自體以上又ハ之ニ反スルモノタル可カラサルモノナリ然ルニ本件ニ於テハ勞働省ハ多數判決ニ依リ與ヘラレタル條約ノ解釋(法廷カ慎重攻究論議ノ末與ヘ而テ一般ニ承認セラレタル解釋ハ法律トナルヘキモノナリ)ヲ無視シ

自由ニ條約乃至移民法ノ字句ニ對スル解釋ヲ與ヘ之ヲ以テ總テノ人及法廷ヲ拘束スルモノトナスモノニシテ不法ト云ハサル可カラス依テ本件審理事項ヲ以テ結局移民法及省令ノ解釋上熊野御堂カ移民法第十三條ノ除外條項ニ該當スルヤ否ヤノ問題ナリトスル政府側主張ニハ同意スルヲ得ヌ又右主張ノ爲引用セラレタル諸判決ハ原告側ノ主張ヲ覆スニ足ラサルモノナリ仍テ本件ニ於ケル真正ノ問題ハ移民局長官ハ勞働長官ノ承認ヲ得テ日米通商條約ノ下ニ國際商業ト國內商業トヲ區別スル規定ヲナシ得ルヤ否ヤノ點ニアルモノナルカスノ如キ區別ハ日米條約ノ考慮セサリシ處ニシテ又移民法中ニモ表明又ハ含蓄シ居ラサル次第ナルノミナラス法廷ニ於ケル諸判決亦斯ル區別ヲ認メサルハ前同說明ノ通りニシテ右ハ全ク勞働省ノ思付ニ依リ初メテ生シタルモノナリ要之原告側ハ飽迄本件ヲ條約問題トシ熊野御堂カ條約上ノ商人トシテ其妻ノ入國ヲ許可セラルヘキモノナルコトヲ主張ス（附屬書第百六十四號）

(三) 本件試訴ニ對スル帝國政府ノ態度

本件試訴ノ勝敗ハ暫ク措キ本件ハ前述ノ如ク既ニ日米社長主宰ノ下ニ桑港巡回控訴院ニ控訴セラレ而テ在留邦人間ニ於テモ桑港日會ノ如キハ熱心ニ之ヲ後援支持シ日本人商業會議所及他地方日會等亦之ヲ援助セントシ居ルモノナリシヲ以テ政府トシテハ特ニ本件ニ介入ノ必要ヲ認メ

サルノミナラス事態ノ司法的性質上自ラ進テ直接又ハ間接ニ之ヲ助成スヘキ筋合ニアラサルニ鑑ミ在桑港帝國總領事カ日米社長及桑港日會書記長ニ對シ本件試訴ニ關シテハ費用其他ニ付政府ノ援助ヲ期待セス又試訴ノ運動等ニ當リテモ政府ヲ引合ニ出シ之ヲ宣傳ノ用ニ供スルカ如キコトヲ爲シ後日我外交渉交渉等ノ際其立場ヲ困難ナラシムルカ如キコトナキ様注意シ充分之ヲ諒解セシメタルニ止メ專ラ成行ヲ注視スルコトトセリ

(四) 巡回控訴院ノ判決

其ノ後一九三〇年四月七日ニ至リ巡回控訴院ハ本人ハ條約上ノ商人ノ妻ナルカ故ニ入國ヲ認ムヘキ旨ノ判決ヲ下セルカ其要旨次ノ如シ

「シヅ」ハ一九二四年移民法第三條(六)ニ基キ入國查證ヲ受ケタルモノナルカ同規定ニ依リ入國ヲ許可セラルルモノハ現在ノ日米通商航海條約ニヨリ單ニ商業ヲ營ムヲ目的トスル者ニシテ日米條約第一條ノ商業ノ意義ハ既ニ大審院判決例ニモ示サル通り廣義ノモノナルヲ以テ移民法第十三條ニ依リ入國ヲ拒絕セラルヘキモノニ非ス移民法ハ條約ニ認メラル權利ヲ維持スヘキナリ「シヅ」ハ眞實專ラ商業ニ從事スル者ニ非サルモ先例ニモアル通り條約ニ基ク非移民ナリ次ニ新聞記者ノ入國資格ヲ考フルニ新聞ヲ發行シ又ハ作成スル者ハ商人ト解スル

ニ充分ニシテ新聞社ニ雇傭セラレル記者モ亦同様ナリ故ニ其妻タル「シヅ」ノ入國ヲ認ムヘキモノトス

移民官憲ハ六月六日ノ上告期限満了前右期限ヲ七月六日迄延期方ノ手續ヲ執リタルモ右期間ヲ經過スルモ遂ニ上告ノ手續ニ出テサリシヲ以テ茲ニ判決確定シ「シヅ」ハ入國ヲ許可セラレタリ

(五) 判決ノ效果

右判決ハ移民法ヲ以テ條約ノ規定ヲ變更シ得サルモノトナシ日米通商條約第一條ノ商業ナル文字ハ國際的商業ノミナラス地方的商業ヲモ包含スルモノト斷定シ右商業ニ従事スル者カ入米資格アルハ勿論其妻ヲモ入國ノ權利アルモノト斷定セルモノニシテ從來米國行政部ニ於テ條約ニ所謂商業ナル語ヲ國際商業ニ限ル旨ノ解釋ヲ採リ來レルニ對シ一大打撃ヲ與ヘタリ而シテ本判決力下級裁判所ヲ拘束スヘキハ勿論ナルモ合衆國大審院ノ最終的判決ト異リ行政部ヲ積極的ニ拘束スル程度甚タ疑問ニシテ在外領事ノ查證等カ從來通ノ解釋ヲ以テ進ムニ於テハ本判決ハ事實上效果薄ク本判決ヲシテ實際的ノ效果アラシムルニハ更ニ日米間ノ折衝ニヨリ解決ヲ圖ル外ナキ次第ナルニ鑑ミ帝國政府ハ其ノ後ノ類似ノ件ノ推移等ヲモ注視ノ上在華府帝國代表者ヲシ

テ米國當局ノ意嚮ヲ確ムルコトトセリ

其後右ノ外鈴木操、池本保、南地福次郎等ノ各事件等相次キ商業ノ範圍ニ關スル同種ノ訴訟ハ皆本邦側ノ勝訴ニ歸シ等シク其妻ノ呼寄ヲ爲スコトヲ得タルモ右ハ何レモ大審院迄行カス下級裁判所ノ判決ナルカ爲大體此種訴訟各個ニ付爭フ場合ハ勝訴トナルコトハ想像シ得ラレタルモ將來ニ互ル一般の拘束力ヲ生シタリト認メ得スシテ終レリ

四、在米大使館ト國務省トノ交渉

斯テ右ノ如キ判例増加ニ從ヒ在米邦人中ニハ前記米國司法部ノ解釋ト同様ノ解釋ヲ行政部ニ於テモ採用セシムヘキ様希望スルモノヲ生スルニ至レリ然レトモ他方豫テ日本人ニ「クオート」ヲ適用スヘシト爲ス移民法修正運動トノ關係上當時本問題ニ付米國側ト交渉ヲ試ムルコト不得策ナリト認メラレタルニヨリ之ヲ差控ヘ居タル處其後一九三〇—三一年短期議會ニ於テハ諸般ノ關係上移民法修正ハ到底奏效ノ見込ナキコト略々明カトナリタルニ付此ノ際條約上ノ商人ノ問題ニ付國務省側ノ切實ナル考慮ヲ求メ差當リ永年米國ニ居住シ地方的商業ニ従事シテ既ニ相當取引上財産上ノ基礎ヲ作レル商人ニ對シ妻呼寄ヲ可能ナラシムル様一九三一年一月二十九日ヨリ在米大使館員ト國務省係官トノ間ニ非公式交渉ヲ開始セシメタリ

其結果大體左記ノ通話合纏リタリ

(イ) 一九二四年移民法實施以前ニ合法的ニ入國シ現ニ米國內ニ適法ノ住所ヲ有スル日本商人ハ地方的商業ニ従事スル者ト雖モ其妻子呼寄ヲ認ムル見地ヨリ國務省ニ於テ各個ノ事件ニ付好意的考慮ヲ加ヘ法規ノ範圍内ニ於テ便宜取計ヲ爲スコト

(ロ) 嘗テ夫ト共ニ米國ニ居住シタルコトアル妻子ニシテ日本ニ歸還シ再渡米不可能トナリタルモノニ付テハ商人以外ノ者ノ家族ト雖モ考慮ヲ加フルコト(日本歸還後出生ノ未成年子女ヲ含ム)

(ハ) 獨身者ニシテ日本ニ赴キ結婚ノ上妻同伴歸來セント欲スル者ニ對シテモ特ニ考慮ヲ加フヘシ

右ハ非公式懇談ノ結果到達シタル了解ニ過キヌ愈々具體的事件ヲ提示シ國務省ノ取計振ヲ見ルニ非サレハ果シテ如何ナル程度迄查證緩和ノ效果ヲ得ヘキヤ明瞭ナラサリシ處其後國內商業ニ従事シツツアル邦人ノ妻ニシテ一時的渡航者トシテ入米セル者カ資格ヲ變更シテ第三條(六)ノ商人ノ妻トシテ永久滞在ヲ勞働省ニ申請シ許可セラレタルモノ原、渡邊、平井各夫人等多數ニ上レリ然レトモ右ハ個々ノ事例ニ對シ勞働省ノ取扱カ稍々寛大トナリタルコトヲ示スト雖モ之

ヲ以テ直チニ第三條(六)ノ商人ヲ國際商人ノ意味ニ解スル一般の態度ニ變更アリタルモノト見ルコトヲ得サルモノト觀察セラレタリ

五、移民法第三條(六)ノ修正

(一) 一九三一—三二年米國第七十二議會第一會期開カルルヤ紐育州選出下院議員「デイックスタイン」ハ國務省側ノ依頼ニ基キ一月十五日左記移民法案ヲ提出シタリ

下院法案第七八〇一號

右ハ一九二四年移民法第三條(六)ヲ修正シ現行法カ單ニ「トレード」トアルヲ明確ニ米國ト本人ノ本國 (the foreign state from which he comes) トノ間ノ貿易ヲ營ム者ニ限ラントスルモノナリ

「デイックスタイン」ハ二月二日ニ至リ右下院法案第七八〇一號末尾ニ但書

「將來締結セラルヘキ通商航海條約ニ準據シ米國ニ入國セントスル外國人ニ對シテハ一九二四年七月一日以降締結セラレタル條約ニ依リ附與セラレタルヨリモ大ナル入國ノ權利ヲ附與セラルルコトナシ」

ヲ附シタル新法案タル下院法案第八七六號ヲ提出シ右ハ二月十二日下院移民委員會ヨリ報告

セラレ六月十八日ニ至リ何等修正ヲ加ヘラルコトナク下院ヲ通過シタリ下院議員「ジェンキンス」ハ本法案ハ條約ニ基キ米國へ入國スル外國人ノ營ム商業ヲ當人ノ本國及米國トノ間ニ限リ米國ト第三國トノ間ニ濫リニ商業ヲ營ムコトヲ禁セントスルモノナリト述ヘタリ

上院ニ於テハ既ニ「コーブランド」ヨリ下院法案第七八〇一號ト同一内容ノ上院法案第三六九八號提出セラレ居リタルモ右ハ廢棄トナリ下院通過ノ法案第八七六六號ニ付審議ノ結果「リード」ヨリ法案中ノ from which he comes ナル辭句ヲ of which he is a national ト修正シ更ニ但書ハ上院ノ條約締結權限ヲ縮小スル虞アリトテ削除ヲ主張シ右ノ通修正六月二十四日上院ヲ通過セリ

其際「リード」ハ本法案ノ目的ハ移民法ヲ引締メントスルモノニシテ通商條約ニ準據シ米國へ入國セントスル外國人ハ其本國トノ間ニ國際商業ヲ營マンカ爲ニ渡米スル者ナルコトヲ明カニシ例之桑港ニ於テ支那人カ八百屋ヲ營マンカ爲入國セントスルヲ禁シ更ニ斯ル外國人ノ妻トシテ寫眞結婚又ハ代理結婚ニ依ル者ノ入國ヲ禁セントスルモノナリト説明セリ

右法案ハ兩院協議會ニ附セラレタル處七月一日下院ハ右上院修正案ニ同意シタル爲直ニ大統領ノ手許ニ送附セラレ七月六日裁可ヲ了シタリ

即チ右修正ハ一九二四年移民法第三條(六)「現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ニ關スル米國行政部從來ノ解釋ヲ立法手段ニヨリテ一方的ニ確立シ司法上及行政上熊野御堂事件ノ判例ノ如キ廣義解釋ノ餘地ナカラシムルモノニシテ結局第三條(六)ニヨリ非移民タルヘキハ「現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ合衆國ト本人カ國籍ヲ保有スル國トノ間ニ於ケル商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人竝ニ其ノ同伴若ハ呼寄セタル妻及二十一歳以下ノ未婚ノ子女」ニ限ルコトナレリ(附屬書第三百三十九號、第四百十號及第四百一十一號參照)

尙其後發布セラレタル移民規則ニヨリ今回ノ修正法ニヨル條約上ノ商人ノ入國ハ滞在期間中其身分ヲ保持スルコトヲ要シ然ラサルトキハ自發的ニ出國スルコトヲ條件トシ又入國ニ際シ移民官カ必要ナリト認ムル場合ハ其資格ニ付特別審査會ノ決定ヲ俟チ之カ入國ヲ許可スルコトアルヘク且其ノ際其出國ヲ保證スル爲五百弗ノ「ボンド」ノ供託ヲ請求セラルコトアルヘシ商人ノ妻及子女モ亦同シク之等入國條件ヲ滿スコトヲ要スルコトニ付テハ既ニ前項ニ記述セリ

(二) 在米帝國大使館ニ於テハ本修正案ノ提出ヲ見タル當時直チニ一應國務省ノ考慮ヲ求メ又上院通過ノ際再應注意ヲ喚起シタル處先方ノ應酬振左ノ通

即チ我方ニ於テハ日米條約ノ「トレード」ハ廣義ニ解釋スヘキモノナルコト竝ニ米國裁判所ニ於テモ我方ノ解釋ヲ裏書スル判決ヲ屢々下シ居ルコトヲ指摘シ本修正ハ條約牴觸ノ問題ヲ生スヘシトノ趣旨ヲ申入レ置キタルカ國務省側ニ於テハ條約ノ所謂「トレード」ハ元來國際間ノ商業ヲ意味シ伊太利人等ニ最モ多數ノ例ヲ見ルカ如キ路傍ニ於ケル果實商人モ靴磨キモ所謂「トレード」ニ從事スル者ナリトノ解釋ヲ是認セハ事實上移民制限不可能トナルヘク且議會ハ一九二四年移民法制定當時ヨリ國際商人ニ限り入國ヲ認ムル趣旨ナリシニ顧ミ國務省ニ於テモ國際商人ニ限り入國査證ヲ與フルコトトシ在外領事ニ對シ一律訓令ヲ發シ居ル次第ナリ而シテ右方針ハ一般的移民制限ノ見地ニ出テタルモノニシテ敢テ日本人ヲ目標トスル次第ニ非ス且在米商人ノ家族呼寄ニ關スル一九三一年在米大使館及國務省間ノ非公式交渉ノ結果ニ關シテハ永年米國ニ在住スル日本人ノ家族呼寄ニ關シテハ可成便宜取計ヒヲ爲シ度キ考ナルコトハ毫モ當時ト異ル所ナク從テ本件修正案ノ成立ニ拘ラス個々ノ問題ニ付テハ實際ノ事情ニ基キ篤ト考慮ヲ加フヘキ旨陳辯セリ

要スルニ前記彼我意見ノ相違ハ現行移民法制定當時ヨリ存續セル次第ニシテ米國側ニ於テハ狹義解釋ノ立場ヨリ一步モ退キタルコトナキモ日本ハ「クオート」ヲ有セサル特殊ノ事情モアリ

在米日本人商人ノ家族呼寄ニ關シテハ査證上相當考量ヲ加フヘシト言フカ國務省側ノ見解ナリ

(三) 尙本修正案提出ノ動機及效果ニ關スル各方面ノ情報ヲ綜合スルニ左ノ通

(イ) 直接ノ動機ハ支那人商人ノ入國ヲ阻止セントスルニアリ即チ米支條約ニ於テハ國內商人其家族及從者ノ入國可能(註、一九二六年十月一日附支那人入國ニ關スル移民規定發布後ハ右既得權ハ現行移民法制定以前ヨリ米國ニ居住スル商人ニ限ルコトナレリ)ニシテ最近之ニ對シ査證ハ嚴重ニ取締リ居ルモ結局條約ノ廢棄又ハ立法手段ニヨリ明白ニ其入國ヲ阻止スルノ必要アリトハ茲數年來ノ勞働省ノ意見(一九二七年勞働長官年報參照)ナリシカ熊野御堂事件以來國內商人モ條約商人ナリトノ意見持出サルルニ至リ日本人關係ニ於テハ商人妻ノ入國問題ニ限ラレ居リ其ノ數亦尠キモ條約上日本ト同様ノ地位ニ在ル伊國人等カ一時的の滞在者トシテ入國ノ上路上ニ果實ヲ賣ルモ素ヨリ商人ナリトシテ裁判手續ニ依リ永久滞在ヲ計ル者今後無數ニ生シ得ヘキヲ恐レタルコト助成原因ヲナシ加之條約商人ニ對スル査證ハ國際商業ヲ營ム者ニ限り附與スヘキヲ訓令セル國務省ノ領事執務規則ハ判決ニ顧ミ條約違反ナリトノ非難ヲ聞クニ至リ茲ニ從來ノ査證ニ關スル方針ヲ法律化セントシタルコトモ國務省ノ決意ヲ

促シタルカ如シ

(ロ) 條約上ノ商人ニ關シ漠然廣汎ナル規定ヲ有スルハ支那日本及伊國トノ條約ノミナルニ鑑ミ本修正ハ各國一律ニ適用アルコトハ勿論ナルカ實際影響ヲ蒙ムルハ右三國ニ限ラルヘク國務省ハ今後改訂ノ條約ハ總テ今回ノ修正法ニ準據スル方針ヲ採ルモノト察セラル

(ハ) 第三國トノ通商關係ニヨリ入國シ永住ノ身分ヲ獲得セル者歐洲各國民中相當アル模様ナルカ將來之等ハ一時的の滞在在者若ハ歩合移民トシテ入國スル外ナカルヘシ

五、本問題ニ關スル出淵大使歸朝談要旨

一九三二年九月二十八日出淵大使賜暇歸朝ノ上武富通商局長ニ對シ本問題ニ關シ大要左ノ通語レ

リ
(イ) 歸朝ノ途次桑港ニ於テ沿岸各領事ト會合シ領事會議ヲ開催シ商人入米問題ニ關シ各領事ニ對シ現實ニ妻子呼寄ヲ希望シ居レル在留者幾何アリヤヲ地方別ニ尋ネタルニ「シアトル」「ポートランド」ハ豫想通現實ニハナク「ロス・アンゼルス」ハ豫想ニ反シ現實ニハナカルヘシトノコトナリシヲ以テ結局妻子呼寄ノ件ヲ問題ニシ居レルハ桑港ノミナルコト明トナリタルカ桑港トテモ最初ハ數百名アルヘシトノコトナリシモ問答ヲ重ネタル結果多少現實ノ希望者アルハ事

實ナルモ其數ハ明ナラストノ實情ト認メラレタリ要スルニ桑港ニハ熊野御堂事件以來ノ歴史アル外地通過ノ代議士等ヨリ煽動セラレタル居留民ノ關係等加ハリ本件ヲ喧シク云フモノナルヘシ

(ロ) 他方米國務省ニテハ法律ハ法律、實際ノ取扱ハ取扱ト云フ建前ニテ實際問題ヲ處理シタル實情ニシテ現ニ一時入國者ヲ商人ノ資格ニ變更スルコトニ就テハ勞働省ヲ説キテ我邦人ノ利益ヲ計ル取扱ヲ爲シツツアリ國際商人國內商人ノ別モ要スルニ事實認定ノ問題ナルヲ以テ實際ノ取扱上ハ新法律制定セラレシト雖モ從來ト何等差異ナキ筈ナリ新法律ニヨレハ第三國ノ取引ニ從事スル商人ハ入國出來スト云フ形式論モアラシモ新聞記者ヲ國際商人ト認定スル取扱ヲ平氣ニテヤル米國ノコトナルヲ以テ今後ノ現實ノ取扱振ヲ注意シ居リタラハヨカラム

(ハ) 右ノ如ク現實ニ希望者モ餘リナキ問題ヲ形式的ニヤカマシク國務省ト論議スルヨリモ現實ノ希望者アル場合個々ノ「ケース」トシテ其入國許可ヲ援助スルコト實際的處理方法ナリトシテ各領事ヲ説得シ其同意ヲ得タリ從テ昨年水澤書記官ト國務省係官トノ諒解事項ヲ公表シタシトノ桑港總領事ノ希望モ取消サシメ置キタル次第ナリ

(ニ) 今後議會等ニテ質問アラハ (一) 沿岸方面ノ實情ハ調査ノ結果桑港ニハ多少ノ希望者モアルモ

他ニハ別段急迫シタル希望者モナキコト(二)條約ノ解釋ハ新シキ法律ニヨリテ左右セララル筈ナキヲ以テ政府トシテハ我方ノ解釋ヲ主張シ米國政府ト交渉中ナルカ米國政府モ實際ノ取扱ハ出來ル丈寬大ナル處置ヲ採リツツアルコト等ヲ指摘シテ適宜應酬シ置キ然ルヘシ

六、入國者ノ資格變更問題

(一) 本邦人殊ニ商人ノ入米問題ニ關聯シ重要視スヘキハ入國者ノ資格變更問題ナリ一九二四年移民法制定當初米國勞働省ハ同法制定前入國シタル者カ同シ第三條(六)ニヨリ條約上ノ商人タル身分ヲ獲得スルニハ一旦國外(墨國又ハ加奈陀ニテ可ナリ)ニ出テテ改メテ其ノ資格ヲ以テ入國スルヲ要ストナセリ其後前述ノ通米國裁判所ニ於テハ日米通商條約中ノ「商業」ナル文字ヲ廣義ニ解釋シ商人カ各個々ノ事件ニ付自ラ進ンテ裁判所ノ判決ヲ仰ク場合ハ國內商人ト國際商人トノ區別ナク移民法第三條(六)ニヨリ條約上ノ商人ト認ムルニ至リ從テ國內商人ト雖モ右ノ手續ヲ履メハ入國、妻同伴並ニ呼寄ヲ爲シ得ル途開ケタリ之カ爲近時米國勞働省ニ於テモ一九二四年移民法制定前ニ入國セル商人(國內國際ヲ問ハス)ノ妻ニシテ移民法制定後既ニ一旦一時的渡米者トシテ入國セルモノカ其ノ資格ヲ變更シ第三條(六)ノ條約上ノ商人タラントスルトキハ敢テ國外ニ出ツルコトヲ要求セス又裁判ニモヨラス頗ル簡單ニ之ヲ許可スルニ至レリ斯テ

少クトモ最近第七十三議會ニ於テ第三條(六)カ改正ヲ見ルニ至ル前迄ハ商人ノ妻ノ資格變更ニ付比較的寬大ナル取扱ヲ爲スニ至レリ

然レトモ右ハ一九二四年移民法制定後渡米セル一時渡航者カ自ラ條約商人又ハ學生ニ資格ヲ變更セントスルニハ依然當初ノ方針通一旦國外ヘ出ツヘキコトヲ要求シ極最近ハ殆ト其ノ方法ニヨリ資格變更スラ可成認メサラントスル傾向アリ殊ニ第三條(六)改正以後ハ國內商人ノ入國、妻ノ同伴並呼寄ハ裁判ニヨルモ不可能ナル狀況ニ立至レリ

(二) 左ニ掲クルハ敍上ニ要約セル本問題ニ關スル實例ニシテ勞働省ノ取扱振ヲ示スモノトシテ注目ニ値スルモノト認メラルモノナリ抑々本問題ニ關シ初メテ勞働省カ其見解ヲ表明シタルハ一九二六年二月金丸事件ノ際ナリ即チ新移民法實施前ノ入國者タル在桑港金丸健兒(桑港商品陳列所員)カ新移民法所定ノ條約上ノ商人ニ該當セサルノ理由ヲ以テ其ノ妻子呼寄不許可トナリ爲ニ同年七月在華府帝國大使館員及勞働省當局間ニ數次ノ交渉アリタルカ其ノ際ニ於ケル勞働省當局ノ見解左ノ通

商人カ其ノ妻子ヲ呼寄スルニハ新移民法ニ依ル條約上ノ商人タル身分ヲ有セサルヘカラス而シテ現行通商航海條約ノ規定ニ從ヒ商業ヲ營ムコトノミヲ目的トシテ入國スル所謂條約上ノ

商人ナル非移民トシテ入國ヲ許可セラルル身分ハ新移民法ニ依リテ始メテ認メラルルニ至ルモノニシテ勞働省ニ於テハ右新移民法ニ依ル條約上ノ商人タル身分ヲ有スル者ハ一九二四年七月一日以後即チ新移民法實施後同法第三條(六)ニ依リ入國シタル者ノミニ限ルト解釋スルモノニシテ同法實施以前ノ入國者ハ其ノ事實上ノ商人タルト否トヲ問ハス新移民法ニ依ル條約上ノ商人ト云フコトヲ得ス

從ツテ新移民法實施以前ニ入國シタル者ニシテ條約上ノ商人トシテ其ノ妻子ヲ呼寄セント欲セハ一旦出國シタル上新移民法第三條(六)ニ依リ再ヒ入國シ以テ同條項ニ依ル條約上ノ商人タルノ身分ヲ確立スルノ外ナシ尤モ右ニ關シテハ必スシモ日本迄歸國スルノ必要ナク便法トシテ一旦墨國若ハ加奈陀ニ出國シタル上正規ノ手續ヲ履ミテ再入國スル方法アリ但シ右ノ方法ヲ採ル場合ニハ入國査證等ノ手續ニ遺漏ナキヲ期スル爲出國前豫メ本人ヨリ出國先ニ於ケル米國領事ニ事情ヲ具シテ出願シ其ノ了解ヲ得ル必要アリ

(三) 其ノ後前記「シアトル」ノ朝倉事件、「ホワイト・ポインント」ノ田上事件及羅府ノ田代事件起リ少クトモ米國裁判所ニ於テハ大體日米條約ノ解釋トシテハ「商業」(「トレード」)又ハ「コムマース」ナル文字ヲ廣義ニ解釋スルコト明カトナリ引續キ熊野御堂事件、鈴木正夫事件(桑港

巡回控訴院)池本保事件(在羅府地方裁判所)南地福次郎事件(在桑港巡回控訴院)ニ對シテモ夫々我方ニ有利ノ判決アリテ商人ノ入國妻同伴竝ニ呼寄ニ關シ(但シ今回ノ第三條(六)ノ修正前)個々ノ事件ニ付裁判ヲ仰ケハ大體國內商人ト國際商人トノ區別ナク等シク條約上ノ商人トシテ取扱ハルル途開ケタルヤノ觀アリシ處其ノ後商人ノ妻ニシテ既ニ一旦一時的渡米者(第三條(一)ニヨル)トシテ渡米シ來リシ者ニシテ夫カ現行法施行以前ノ渡米者ニシテ目下米國ニ在住中ナル場合(必スシモ國際商人ニ限ラス)入米當時ノ資格ヲ變更シ商人ノ妻トシテ永久滞在ヲ勞働省ニ申請シ裁判ノ形式ニヨラス勞働省ヨリ之カ許可ヲ受ケタルモノニ一九三一年七月以來羅府在住平井(豪造)夫人及渡邊(與六)夫人等アリ即チ之等ノ事例ヨリ見ルニ勞働省側ニ於テ商人ノ妻ノ資格變更ニ對シテハ商人ノ入國ノ權利ノ確認ニ一々裁判ノ形式ヲ履ミタルニ比スレハ大イニ寛大ナル取扱ヲ與フルカノ如ク見エタリ

(四) 然レトモ偶々商人ノ妻ニ對スル入國資格變更ニ關シ示サレタル勞働省ノ寛大ナル取扱ハ現行移民法制定後渡米セル一時的渡航者カ學生又ハ商人ニ資格ヲ變更スル場合ニハ必スシモ一律ニ之ヲ與ヘスシテ或ハ一時的渡航者ニ對シ簡單ニ資格變更ヲ認メ或ハ當初ノ見解通一旦國外ニ出テテ其資格ヲ變更シ改メテ入國スヘキコトヲ要スルモノト爲セリ

(イ) 即チ一九二八年五月佐藤芳ナル者教育視察ノ爲渡來「シアトル」ニ滞在シ滞在期間ヲ數回

更新延長セリ而シテ同人ハ入國以來同地ノ二三國語學校ニテ教鞭ヲ執リツツ旁ラ在「ポートランド」ノ「オレゴン」大學選科及基督教青年會經營ノ一學校ニ通學シタル後一九三一年以來同地「リード」大學ニ轉シ目下在學中ナル處同年八月最後ノ滞在期間内所用ノ爲加奈陀ニ赴キタルカ歸米ニ際シテハ「ヴィクトリア」駐在米國移民官ノ指示ニ基キ「ポートランド」移民局ニ「ボンド」五百弗ヲ供託シ再入國ノ上一九三二年五月一日迄(即チ前記勞働省最後ノ許可期間内)滞在ヲ許可セラレタリ

而シテ同人ハ過般右五月一日期間滿了ニ先チ重テ勞働省ニ更ニ一年間滞在延期ヲ申請シタルニ今回ハ却下セラレタリ然ルニ同地移民官ハ右却下ハ法規上ノ理由ニ依ルモノニ非スシテ政策上ノ考慮ニ基クモノナリトノ見解ヲ有シ一旦加奈陀ニ赴キ資格ヲ學生ニ變更シ改メテ入米ヲ試ミハ或ハ成功ノ見込アリ本人其ノ意嚮ナラハ本人ニ有利ナル意見ヲ附シ一件書類ヲ晚香坡駐在米國移民官及米國總領事ニ回付スヘキ旨同人ニ申聞ケタル爲同人ハ六月一日陸路晚香坡ニ到リ加奈陀ノ移民官ニ對シテハ前記事情ヲ述ヘ其ノ用向終了スル迄二三週間ヲ限り滞在許可ヲ得翌日在晚香坡帝國領事館ニ出頭學生トシテ新旅券下付セラレタルヲ以テ同地駐在

米國總領事ニ「リード」大學總長ノ紹介狀ヲ提出シ新旅券ニ學生トシテ入米ノ查證ヲ求メタリ米國總領事ハ之ニ對シ學生トシテノ入國查證ニ關スル内規ヲ示シテ右記書類ノ外更ニ出生證明書、「ポートランド」ニ於ケル資格確實ナル知人ノ本人カ在學中勞働ニ依ラスシテ生計ヲ立テ勉學シ得ル旨ノ證明書ヲ提出スルヲ要スル旨ヲ申聞ケタルカ右ノ内知人ノ保證書ハ「ポートランド」ヨリ郵便ニテ取寄セタルカ出生證明書ハ之ニ相當スル戸籍謄本ヲ本人持合セサリシヲ以テ在晚香坡帝國領事館ニ於テ舊旅券ニ基キ出生證明書ヲ作成シ右兩書類ヲ提出シタルニ簡單ナル身體検査ヲ行ヒタル後六月十五日入國查證ヲ與ヘラレ更ニ同地駐在ノ移民官ヨリ「リード」大學在學中更ニ向フ三年間滞在ノ許可ヲ與ヘラレタリ

(ロ) 一九三〇年十月兵頭直明ナル者東京府ヨリ「ホテル」業視察ノ爲米國行旅券ノ下付ヲ受ケ渡米羅府ニ滞在シ滞米期間ヲ數回更新延長セリ然ルニ最後ノ更新期間ノ滿了スルト共ニ同人カ東京市京橋區山口貿易會社ノ米國代表員トナリ其ノ渡米資格ニモ變更ヲ來シタル爲同人ハ一旦歸國ノ上再ヒ渡來スルノ手數ヲ省キ加奈陀ヨリ國際商人トシテ入米スル手續ヲ執ルヘク直接在晚香坡米國總領事館ニ赴キ從來ノ經過並ニ今回入米目的ノ有リノ儘ヲ告ケタル處同館ニテハ同人ノ資格變更ヲ認メ前記旅券ニ國際商人トシテノ查證ヲ與ヘタリ

本件ニ關シ米國總領事館カ前述ノ如ク容易ニ資格變更ノ米國行査證ヲ與ヘタルハ本人カ有力ナル紹介狀（在羅府商業會議所會頭ヨリノ在晚香坡米國總領事館宛同人紹介狀）ヲ所持シタル等ノ點ニ依ルコト多キモノノ如シ

尙同人ハ米國總領事館ノ査證ヲ受ケタル後更ニ同地米國移民局ニ赴キタルニ同移民局ニテハ從來此種ノ先例ナカリシ爲本件ハ米國總領事ノ査證アルモ移民局側トシテ研究ヲ要スヘキ所ナリトテ在羅府米國官憲ニ兵頭ノ渡米資格及資格變更ノ事情等ニ付照會シ又勞働省ヘモ照會ヲ發シタルカ如ク結局人頭稅十弗ノ外「ボンド」五百弗ヲ納入セシメタル後同局ノ査證ヲ與ヘタリ

(ハ) 一九三一年五月一日桑港駐在蟹罐詰共同販賣會社派遣員萩野濱一ナル者一時渡航者トシテ渡米シ六ヶ月ノ滞在期間滿了後更ニ六ヶ月滞在期間ノ延長ヲ避ケ其ノ資格ヲ移民法第三條(六)ノ規定ニ基ク條約商人ニ變更シタキ趣ヲ以テ其ノ斡旋ヲ在桑港帝國總領事館ニ願出タリ依テ同館ニ於テハ移民局ニ交渉スルニ先立チ移民官ノ取扱振リヲ内査セシムルヲ適當トシ(1)本人ノ身分ニ關スル同館ノ證明舊(2)米人桑港商業會議所ノ推薦狀(3)日本人桑港商業會議所ノ身分證明書(4)三菱商事株式會社桑港支店ノ身元引受書等ヲ準備セシメ先ツ本人ヨリ直接移

民官ニ願書ヲ提出セシメタル處移民官ニ於テハ一件書類ヲ調査シタル後特ニ煩雜ナル證明書等ヲ要求スルコトナク頗ル無難作ニ願書ヲ勞働省ニ移牒シ次テ同省ヨリ桑港移民局經由資格變更ノ許可ヲ得タリ尙在桑港帝國總領事館管内ニ於ケル資格變更ノ先例ヲ見ルニ先年同地日本書籍文具類ヲ輸入販賣シ居ル青木大成堂養子巖カ一時渡航者トシテ渡米シ後在留ノ儘條約商人ニ資格變更セラレタルコトアルモ其ノ際ニハ在本邦米國領事ノ發給セル本人ハ條約商人トシテノ査證ヲ附與シ得タルモノナルモ必要ナル書類ヲ整フル時日ナカリシ爲一時渡航者ノ査證ニヨリ渡米スルモノナル旨ノ證明書ノ提出ヲ必要トシタル事實アリ

(五) 以上ニヨリテ明カナルカ如ク一九二四年米國移民法第三條(六)規定ノ條約商人ノ意義及其入國權ニ關シテハ（但シ七十二議會ニ於ケル第三條(六)ノ改正前）比較的邦人商人ニ有利ナリシモ該移民法第三條(二)ニヨリ非移民一時訪米者カ渡米中同法第三條(六)ノ非移民條約商人ニ資格變更シ得ルヤ否ヤニ付テハ未タ適確ナル判例ナク從テ前記兵頭並ニ萩野ノ如キ取扱ヲ受ケツツアル狀況ナルカ嘗テ希臘人「メタキシス」(Mataxis)ナル者資格變更ニ關スル裁判ヲ提起シ一九三〇年五月二十六日桑港第九區巡回裁判所ニ於テ勝訴ノ判決ヲ與ヘラレタルコトアルモ右ハ現行民法施行前ノ一時入國者ノ資格變更ニ關スルモノナルヲ以テ直ニ之ヲ現行民法ニ依

ル一時入國者ノ場合ニ適用シ得ス僅ニ一九三一年支那人一時入國者「ダン・フー」(Dang Foo)ノ「ボンド」返還訴訟(一八八二年支那人排斥法第六條規定ノ證明書ヲ提出シテ渡航シ桑港巡回裁判所ノ判決ニ依リ初メ無期限滞在ヲ許可セラレタル者後ニ到リ「ボンド」ヲ積ミタルカ條約商人ニ身分變更ノ故ヲ以テ「ボンド」返還ヲ求メ巡回裁判所ニ於テ勝訴トナル)ニ於テ一時入國者ヨリ條約商人ニ資格變更ヲ認メタル判例アルモ之トテ無期限滞任者ノ資格變更ニシテ之ヲ其儘本邦人一時入國非移民カ入國後ニ於テ條約商人非移民ニ資格變更セントスル場合ニ適用セララルヤ疑問トセラレタリ

現ニ國際商人ノ資格歴然タル前記兵頭直明ノ如キニモ一旦出國ノ上條約商人非移民査證ヲ求メシメタル事例アルニ付在桑港若杉總領事カ本件ニ關スル勞働省ノ方針ヲ調査セル處一九三二年四月在羅府管内居住小川文子ノ資格變更不許可決定以來一時入國非移民ハ入國當時ニ於テ條約商人非移民ノ資格ヲ有セル者ニ非サル限り資格變更ヲ許可セサルコトナシ居レル趣ナリ

即チ右小川文子ノ資格變更不許可決定書(附屬書第百六十五號)ニ明示セラレ居ル本件ニ關スル勞働省ノ見解左ノ如シ

「熊野御堂、南地、鈴木等ニ關スル判例ハ入國當時條約商人資格ヲ有スル者ノ入國權ヲ認メ

タルニ過キササルヲ以テ之ニ依リ直ニ入國當時商人タラサリシ一時入國非移民カ入國後ニ於テ商人タル身分ヲ獲得シタル廉ニ依リ條約商人非移民ニ資格ヲ變更シ得ルモノト爲スヲ得ス米國議會ハ移民制限ニ關スル嚴格方針ノ下ニ一九二四年移民法ヲ制定シタルヲ以テ同法ノ各條項ハ嚴ニ外國人ニトリ不利ナル様解釋スヘシ若シ條約カ爾後ノ國內法ト牴觸スル場合ハ國內法ノ效力ヲ認ムヘキコト大審院ノ判例ノ認ムル處ナリ移民法第三條(二)ハ用務觀光等ノ爲一時入國ノ非移民ヲ入國セシムルモ同法第十五條ニ於テ此種一時訪米者ノ滞在期間ヲ限定セリ即チ一時入國者ハ特定ノ期間附滞在ノ爲入國ヲ許可セラレタルモノナルヲ以テ期間終了後尙滞在シ無期限滞在ノ權利ヲ主張セハ一時訪米者トシテノ非移民資格ヲ喪失スルモノト云ハサルヘカラス若シ一定期間内ニ出國ヲ要求スル第十四條及第十五條カ日米條約ニ牴觸スルトセハ觀光用務ノ爲ノ旅行者ノ滞在期限ヲ附シタル點ナリ

移民法第三條(六)ハ條約商人非移民カ現行條約ノ下ニ入國スルコトヲ許可シ居レリ而シテ其滞任ハ資格存續スル限り無期限ナルカ同項ノ規定ハ入國當時ニ於テ商人タリシコトヲ要求スルモノナリ然ラサレハ同項ノ entitled to enter ナル文句ハ無意義トナルヘシ同項カ日米條約ト牴觸スルトセハ夫ハ入國當時ニ於テ資格保有ヲ要求スル點ナリ條約商人ノ妻子ノ資格モ亦

同様に入國當時ヲ以テ定ムヘシ

又同法第三條ニハ非移民間ノ資格變更ヲ許ス明文ナキヲ以テ外國人ハ變更ノ權利ヲ主張スルヲ得ス

抑々議會ハ各種非移民ニ對シ夫々滞在期間ヲ明示セルヲ以テ特定期限ヲ附シテ入國セシメタル者ノ滞在ヲ資格變更ニ依リ無限ニ延長シ移民制限ヲ旨トスル議會ノ目的ヲ行政部ノ一機關ニ依ツテ變更スルコトヲ許スモノト思考スルヲ得ス若シ資格變更可能ナリトセハ日本人海員カ船舶乗組換ノ爲ニ許サルル六十日間ノ滞在期間中ニ輸入商ニ轉セル場合ニ於テモ爾後滞在ヲ許ササル可カラス通過旅行者ニ就キテモ同様ナリ然ラハ一九二四年ノ制限的法律ハ幾多ノ回避手段ヲ有スルモノト云ハサル可カラス

條約商人ノ身分ヲ有スル者ハ即時無期限滞在ノ入國ヲ許サルルヲ以テ資格變更者ニ再入國ノ手續ヲ採ラシムルハ徒ラニ不便ヲ與ヘテ不都合ナリトノ議論アランモ入國ト居住權ヲ入國當時ノ資格ニ依ラシムル根本方針ヲ枉クルヲ得ス

「ダン・フー」訴訟事件ニ於ケル第二區巡回裁判所ノ判決文中「非移民ハ移民歩合ヲ定ムルヲ目的トセル一九二四年移民法ノ目的外ニアリテ非移民間ノ資格變更ヲ妨クルモノニ非ス」ト

ノ意見ニハ贊同スルヲ得ス

勞働省ハ從來右ト反對ノ取扱ヲ爲シタルモ近來此種出願激增セルニ依リ熟慮考究ノ末之ヲ不許可トスルコソ正當ナルノミナラス適法ナリト思考スルニ至レリ

第二節 一九二四年移民法排日條項修正運動

第一、序 說

一九二四年ノ米國移民法制定ニ對シテハ帝國政府ヨリ嚴重ナル抗議ヲ提出シタル外其後「クローリッヂ」大統領ノ共和黨大統領候補受諾演說ニ於テ「一九二四年移民法ハ已ニ結末ヲ告ケタル事件ナリ」ト述ヘタルニ對シテモ「本問題ハ之ヲ以テ國際的ニ終決シタリト思惟スルヲ得サル」旨ヲ米國側ニ通告シ將來ニ互ツテ問題トスルノ意思ヲ闡明シ置クト共ニ帝國議會開會ノ都度外務大臣ノ外交方針演說ニ於テハ常ニ本問題ニ言及シ排日移民法ハ日米間從來ノ親善關係ニ顧ミ甚タ遺憾ニシテ吾人ハ本問題カ兩國國民間ノ諒解増進ニ依リ一日モ速ニ圓滿解決センコトヲ期待ストノ趣旨ヲ述ヘ帝國政府竝ニ國民カ排日移民法ニ依リ受ケタル不快ノ感情ハ決シテ之ヲ忘却スルモノニアラサルコトヲ表明シ來レリ他面本問題ノ是正解決ハ米國法律ノ改正ニ俟ツヘキモノナルニ鑑ミ